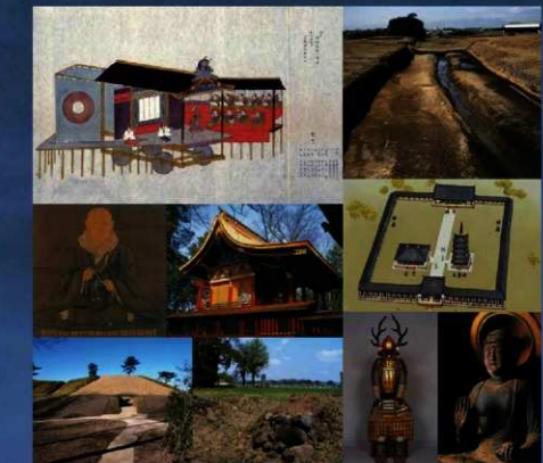


新版 前橋の文化財



前橋市教育委員会

新版 前橋の文化財

前橋市教育委員会



新版

前橋の文化財

前橋市教育委員会

はじめに

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

「文化財を身近なものに」。今回の「新版 前橋の文化財」にはこうした願いが込められています。文化財とは何でしょうか。私たちとの関わりが小さい特別なものなのでしょうか。

前橋市内には文化財として指定された物件が三百件以上あります。子どもの頃に遊んだ木が天然記念物であったり、町の祭りに出てる獅子舞が民俗文化財であったりと、文化財はどれもが私たちの身近にあるものなのです。郷土前橋の文化財は、遠く上毛野（かみつけの）の時代から、長い歴史の中で生まれ、人々によって守り伝えられ、今も生き続けています。そしてこれらは前橋市民全体の貴重な歴史遺産として、また、今も生き続ける前橋の文化として未来の世代に伝えていくことが現代を生きる私たちの責務であると考えています。

このような前橋の文化財を紹介する本として、平成11年に「増補・前橋の文化財」を制作しましたが、以降、新たな文化財が指定されたことや、市町村合併により赤城山の南麓にある多くの文化財が加わったことから、このたび改訂版を制作しました。

今回はいつも身近において活用できるよう、A5判のハンディーな編集としました。また、文化財の探訪にすぐ役立つように前橋の古墳群や巨樹・巨木など、テーマごとに代表的な文化財を紹介してあり、興味のあるテーマからご覧いただくことができます。この本を片手に前橋の文化財を歩いてみませんか。文化財を通じて郷土の歴史を感じていただき、前橋のルーツを物語る貴重な文化財探訪の旅を楽しんでいただけることを願っています。

平成23年11月

前橋の文化財の歩き方

前橋市内にある多岐にわたる文化財は、日々として染かれてきた前橋市民の生活の軌跡。そこには、歴史の糸余曲折を織り込んだ社会の喜怒哀楽が染みこんでいる。今、私たちはどのような未来を希求したら良いのだろうか。市内に残された数々の文化財はあやまりのない未来を志向するための一里塚。先人たちの培った思考の原点を振り返りながら、自己を見つめ、社会を考えるための、文化財巡りの旅に出かけよう。その旅の先にはかならずや輝かしい将来展望が見えてくるでしょう。

前橋市教育委員会では文化財探訪のための地区別のルートマップを作成しています。文化財保護課にて配布(無料)しておりますので、本書とともに活用してください。なお、市内各地に文化財の展示を含めたガイダンス施設があります。

*文化財等の所在地は、巻末の指定文化財等一覧でご確認ください。

文化財めぐりのルートマップ

中央・南橘(旧沼田街道沿い)の文化財めぐり

朝倉・広瀬の文化財めぐり

芳賀・桂萱の文化財めぐり

元総社・東の文化財めぐり

総社・清里の文化財めぐり

城南地区的文化財めぐり

大胡地区的文化財めぐり

宮城地区的文化財めぐり

粕川地区的文化財めぐり

富士見地区的文化財めぐり



ガイダンス施設

前橋市教育委員会文化財保護課玄関ホール（三保町二丁目）

粕川歴史民俗資料館（粕川町膳）

総社資料館（総社町総社）



CONTENTS

はじめに 前橋の文化財の歩き方

母なる山 赤城山	1
前橋の古墳と古墳群	13
朝倉・広瀬古墳群 大室古墳群 総社古墳群	
赤城南麓の古墳群	
〔埴輪 踊る男子像〕	40
東国最古の寺 山王廃寺	41
山麓に横たわる謎の用水堀 女堀	47
二之宮地区の女堀 飯土井地区の女堀 東大室地区の女堀	
神たちの集う総社神社	53
〔岩神の飛石〕	60
赤城の裾野に集う神たち	61
三夜沢赤城神社 二宮赤城神社 産泰神社	
仮の造形	69
戦国時代の夢の跡	79
大胡城跡 講城跡 女渕城跡 柏倉殿替戸岩跡	
大前田内出居砦跡 中村城跡 宿の平城跡	
前橋城とその城下町	89
御里御坊 妙安寺	109
〔奈良三彩小壺〕	130
秋元氏と光巌寺	131
匠の技	137
書き残された文と絵	143
祈りの舞 感謝の舞	151
祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具	161
祈りの造形② 路傍の碑	174
ふるさとの歴史群像	181
絹の都 前橋の記憶	185
世相を見つめ続けた巨樹・巨木	201
〔土偶〕	212
指定等区分別文化財件数	213
指定文化財等一覧	214



母なる山 赤城山

上毛三山のひとつである赤城山は四季折々に彩りを変えつつ悠久の時をたたえて前橋市民を見つめ続けてきた。

山懐にある櫛石は社会の安寧を願った磐座。古墳時代の信仰の場として聖なる山赤城山の原点を伝える重要な遺跡である。

古代から中世には山頂に新たな聖地としての信仰世界が形づくられてきた。地蔵岳の山頂や、聖なる水をたたえた大沼と小沼は古代山岳信仰の聖地として、山や沼へ鏡を奉納しつつ社会の清浄を願う納鏡信仰が発生する。この沼は山麓に生活する人々の農業用水源としての役割もにない、古くからふるさと前橋地域の農業社会を醸成してきた。それを物語るように山麓には数多くの農業集落遺跡が散在している。

御蒼とした山林の中に佇む宇通遺跡は山林修行の仏教寺院の遺跡。滝沢の不動滝に寄り添う滝沢不動明王像は山麓の人々の信仰の証。

母なる山として守られてきた赤城山には今なお多くの自然が残されており、山麓では人々の生活と信仰世界が赤城の自然に抱かれつつ渾然一体となって心豊かな地域社会が育まれてきた。



標 石 三夜沢赤城神社の後方で標高877.9mの地点にある巨岩。まわりから土師器や石製模造品などが出土する古墳時代の祭祀遺跡 古墳時代



小鳥が島の宝塔 応安5年(1372)の銘がある。



小鳥が島出土鏡



大洞赤城神社と小鳥が島 ここには、応安5年銘の宝塔があり、納鏡10面が出土している。現在は大洞赤城神社が南側対岸から移されてここにある。



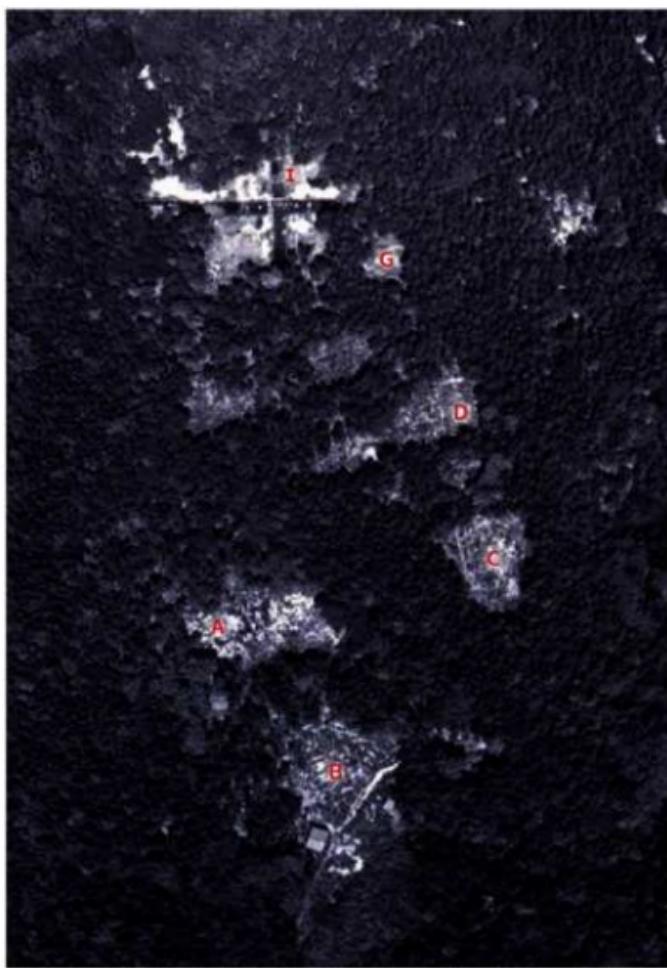
小沼出土八稜鏡



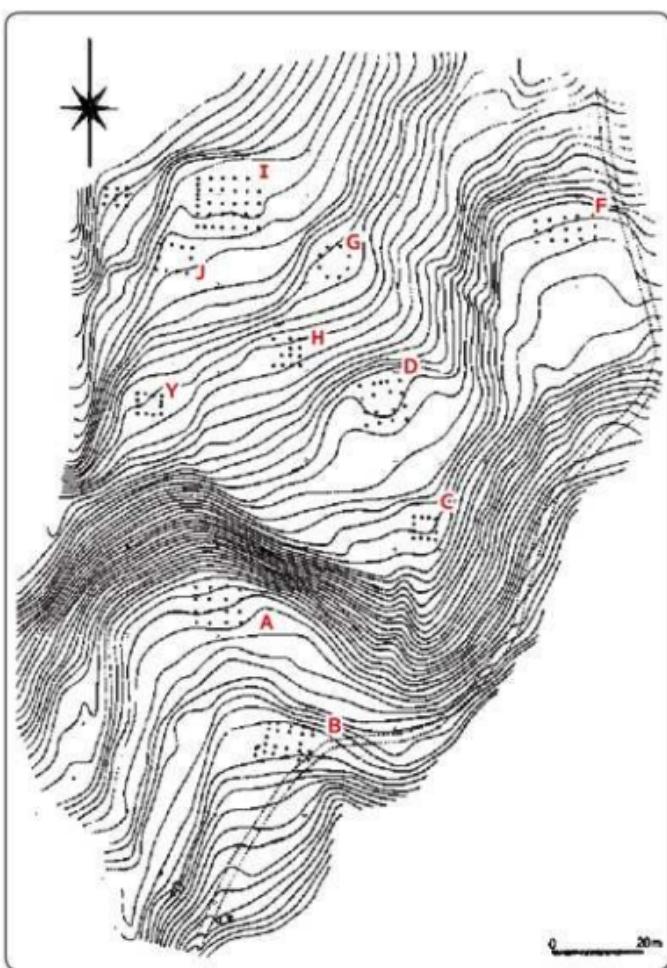
宇通遺跡の礎石建物A



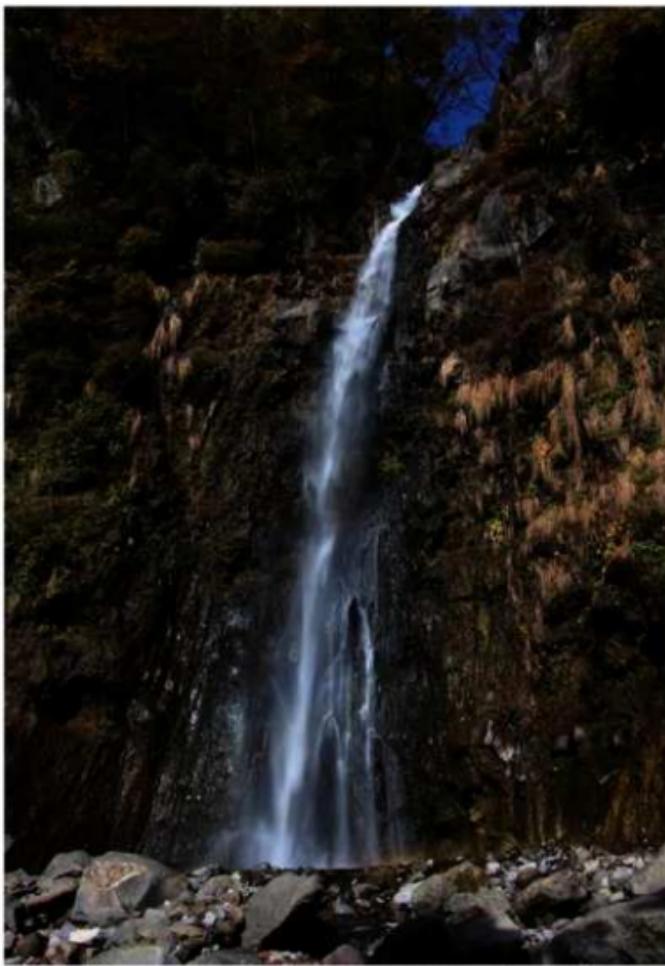
宇通遺跡の礎石建物G(八角円堂)



空からみた宇通遺跡 赤城山中にある山岳寺院で10世紀に創建されて11世紀後半には廃絶した。今は礎石のみが残っている。平安時代



宇通遺跡の礎石建物位置図(アルファベットは礎石建物の名称)



滝沢の不動滝 赤城山の小沼から流れ出た粕川の上流部にあたる。落差約32m



滝沢不動明王像 銅製で応永13年(1406)に上野国佐貫庄司藤原道広が寄進したと
伝えられている。像高90cm



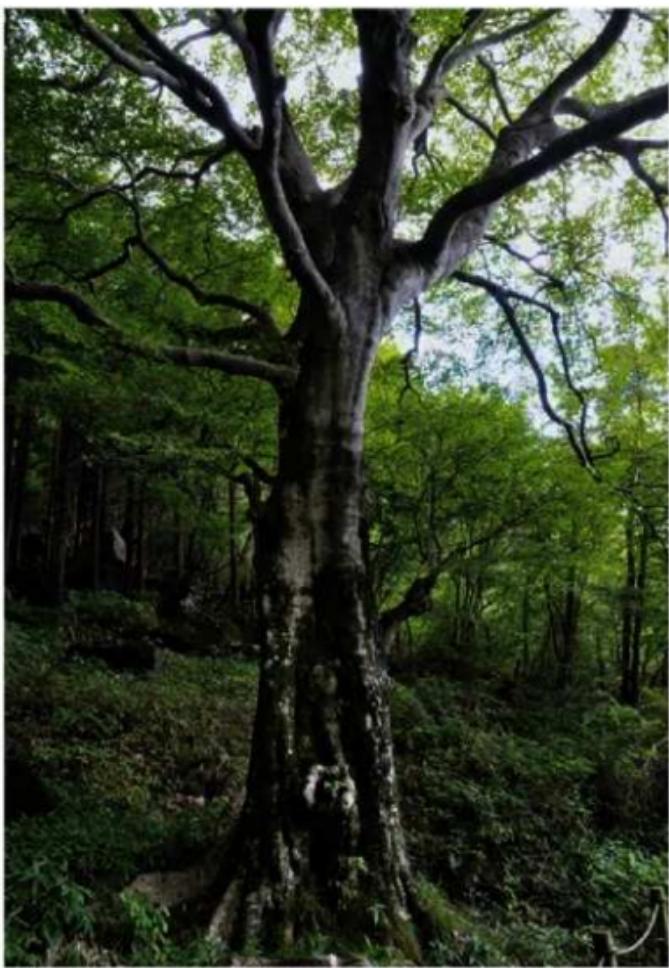
阿久沢家住宅 17世紀後半の中規模農民の民家 柁行19m、梁間8.4mの萱葺き寄棟造り 江戸時代



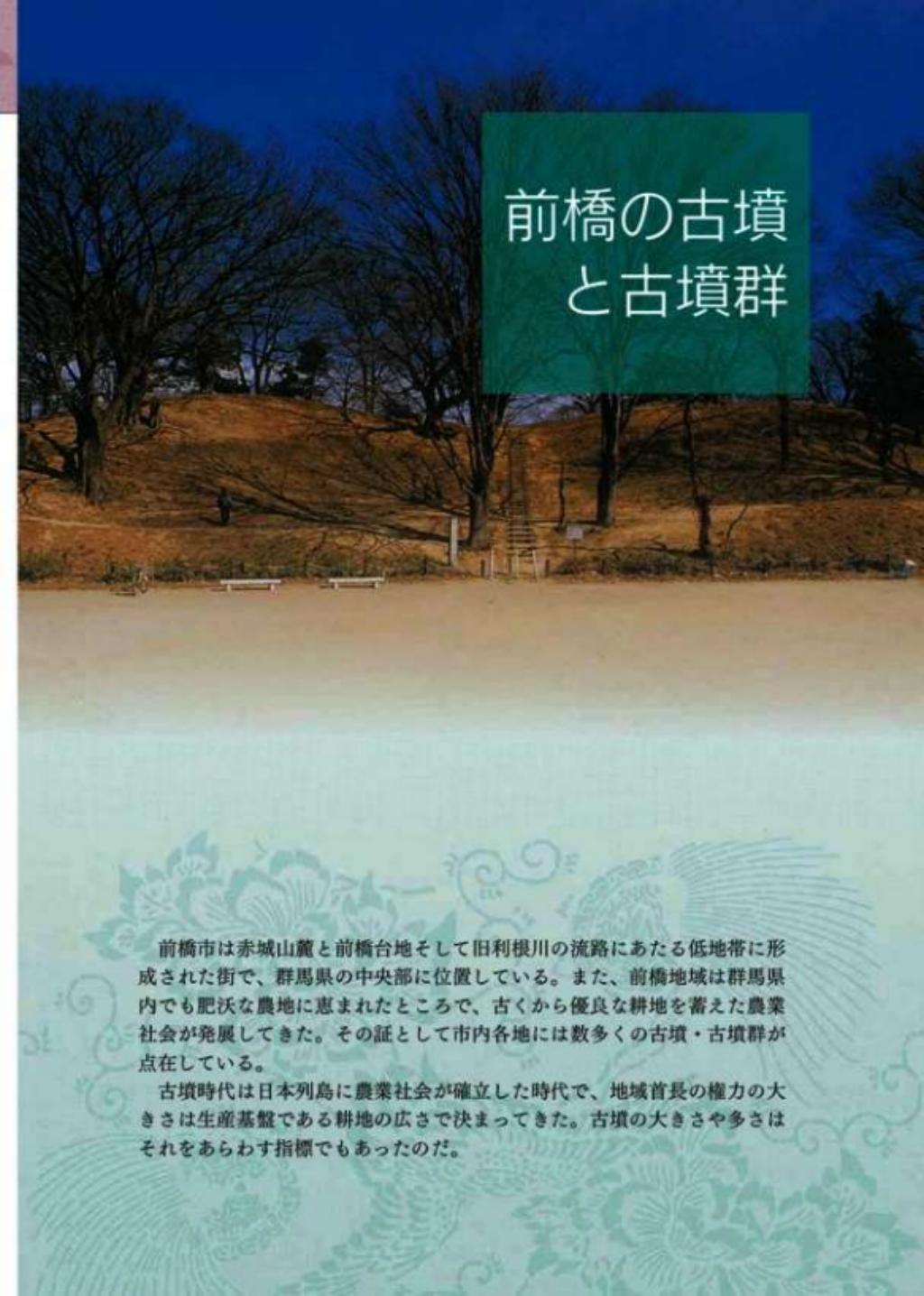
沼の窪のザゼンソウ 市有林内を流れる細ヶ沢川沿いに長さ1,300mにわたり自生している。



三夜沢赤城神社のたわらスギ 俵藤太(藤原秀郷)が献木したと伝えられている。



大穴のブナ 目通り周 4 m、樹高約25m。樹齢は300年以上と推定される。



前橋の古墳 と古墳群

前橋市は赤城山麓と前橋台地そして旧利根川の流路にあたる低地帯に形成された街で、群馬県の中央部に位置している。また、前橋地域は群馬県内でも肥沃な農地に恵まれたところで、古くから優良な耕地を蓄えた農業社会が発展してきた。その証として市内各地には数多くの古墳・古墳群が点在している。

古墳時代は日本列島に農業社会が確立した時代で、地域首長の権力の大きさは生産基盤である耕地の広さで決まってきた。古墳の大きさや多さはそれをあらわす指標でもあったのだ。

朝倉・広瀬古墳群

最も古い八幡山古墳は4世紀に造られた前方後方墳で、全長100㍍を超える大きさは東日本最大の規模である。前橋天神山古墳も4世紀代に造られた古墳で、全長100㍍を優に超えている前方後円墳である。この古墳群では6世紀にも全長100㍍を超える前方

後円墳の天川二子山古墳が造られ、そのほかにも前方後円墳や円墳がひしめくように造られて群馬県内最大の古墳群が形成されていった。その背景には前橋台地の広大な耕地の開発があったのであろう。



空からみた八幡山古墳・前橋天神山古墳(昭和30年代)



前橋天神山古墳 全長129mの前方後円墳 4世紀後半



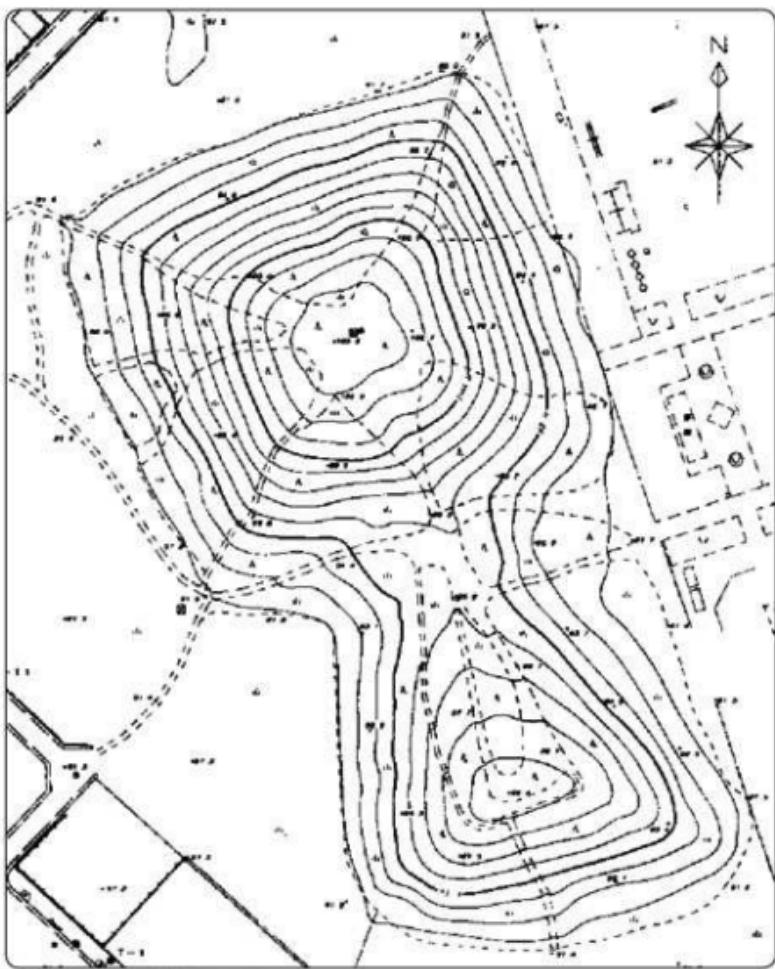
三角縁神獸鏡 前橋天神山古墳から出土したもので県立歴史博物館に展示されている。



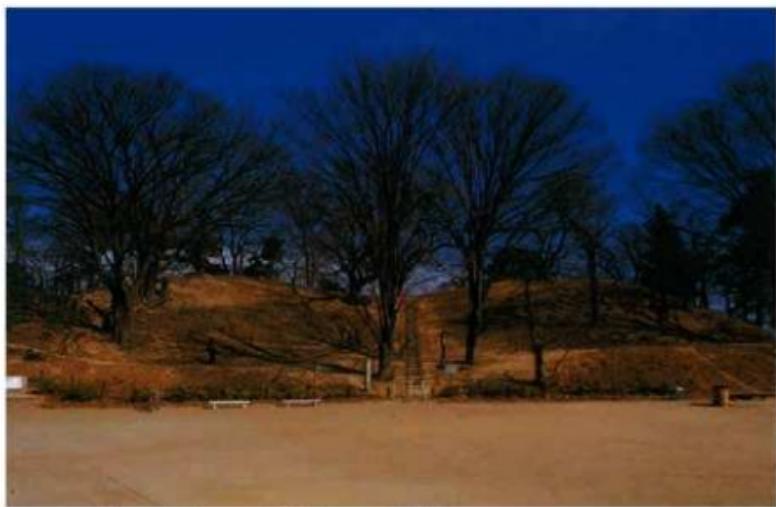
三角縁神獸鏡拡大図



八幡山古墳 全長130mの前方後方墳 4世紀後半



八幡山古墳平面図(縮尺1:1000)



天川二子山古墳 全長104mの前方後円墳 6世紀後半



カロウト山古墳石棺 長さ2m6cm、幅1m10cm、高さ73cm 凝灰岩
製で長側面にそれぞれ二つの縄掛突起をもつ家形石棺の一種と思わ
れる。5世紀後半



不二山古墳 全長54.5mの前方後円墳 6世紀後半



亀塚山古墳 後円部直徑約40mの帆立貝式古墳 6世紀前半



金冠塚古墳(左)
全長52.25mの前方後円墳 6世紀後半
金銅製王冠(右)
金冠塚古墳から出土したもので東京国立博物館に展示されている。

大室古墳群

6世紀代に赤城山の南麓に造られた三基の前方後円墳で、前二子・中二子・後二子と呼ばれる古墳が継続的に造られた。いずれも100m級の大型古墳で、近接して小二子古墳が造られている。赤城山の山麓に形成された谷筋を水田化して生産基盤としていた。

なお、この古墳群は、『日本書紀』安閑天皇の条にある「武藏国造の乱」に

関連した上毛野君小熊の墳墓との見解がある。この争乱は武藏国で笠原直使主と小杵が国造の地位をめぐって争い、小熊は小杵に荷担して失墜した事件である。

また、明治時代には英國公使館書記官のアーネスト・サトウが調査に来訪したことでも有名である。現在は古墳公園として整備公開されている。



前二子古墳 全長93mの前方後円墳 6世紀前半



中二子古墳 全長107.5m 6世紀中頃



後二子古墳 全長76mの前方後円墳 6世紀後半～7世紀初頭



小二子古墳



四神付飾土器 前二子古墳の石室から出土した高さ約58cmの筒形器台と呼ばれる須恵器で、器面に付いている動物の小像が四神であるという。

前橋の古墳と古墳群



空からみた大室古墳群



石室に副葬された土器



墳丘に立てられた埴輪

総社古墳群

前方後円墳に代表される古墳時代は6世紀には終焉し、その後は各地に小規模な円墳が散在するなかで、7世紀の飛鳥時代には総社地域に愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳の三基の大型方墳が連続して造られた。

発掘調査によって宝塔山古墳は周塁を含めた墳丘範囲は一辺約96m、蛇穴山古墳は同じく82mであることが

わかっている。

総社古墳群は、5世紀後半に造られた遠見山古墳から王山古墳・王河原古墳(現在は消滅)・総社二子山古墳・愛宕山古墳・宝塔山古墳を経て7世紀末期の蛇穴山古墳まで連綿と造られており、その後にこの地には上野国府が成立することから古代上毛野君の本拠地と目されている。



遠見山古墳 全長70mの前方後円墳 5世紀後半



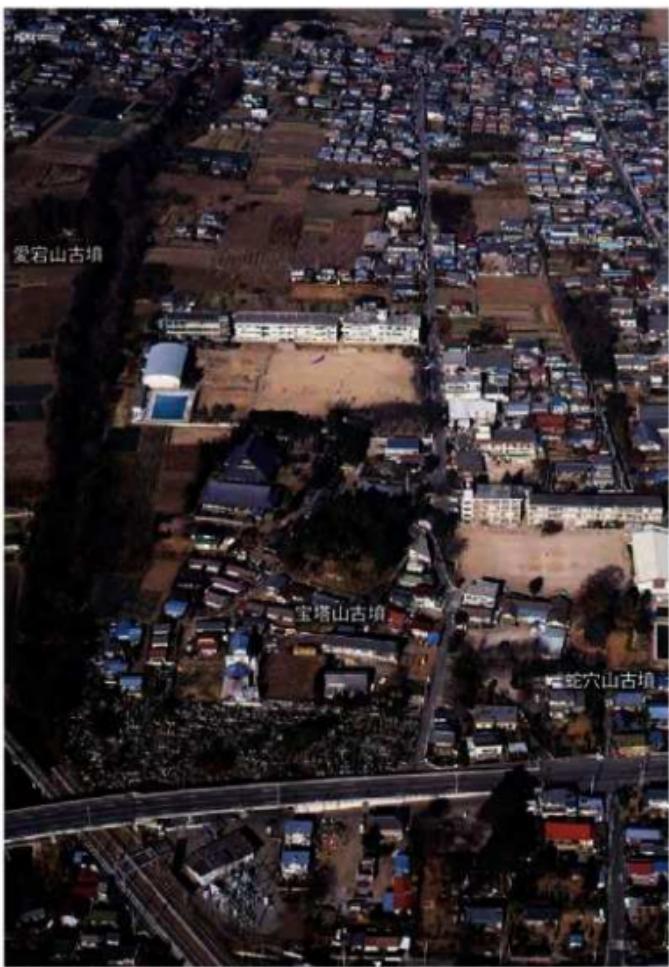
総社二子山古墳 全長89.9mの前方後円墳 6世紀後半～7世紀初頭



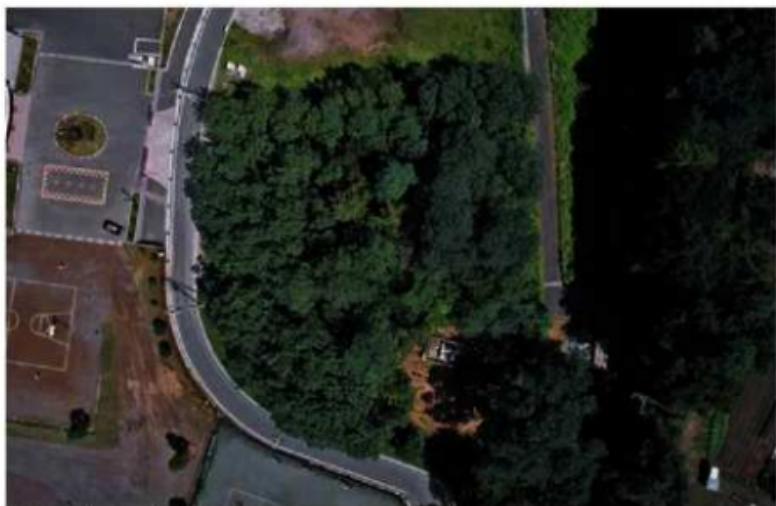
王山古墳 全長75.6mの前方後円墳(発掘時) 6世紀前半



王山古墳 蓋石の状態が観察できる。



空からみた愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳



愛宕山古墳 周堀を含めた全長南北92m、東西94mの方墳 7世紀前半



愛宕山古墳(発掘時)



宝塔山古墳 周堀を含めた一辺96mの方墳 7世紀中頃



蛇穴山古墳 周堀を含めた一辺82mの方墳 7世紀末



愛宕山古墳の石室と石棺



宝塔山古墳の石室(奥に石棺がみえる)



蛇穴山古墳の石室と棺台



蛇穴山古墳中堤北側の葺石(発掘時)

赤城南麓の古墳群

赤城山の南麓は山麓を流れる小河川に侵食された谷地形が発達している。この谷は古墳時代には水田耕地として開発されたと思われ、それを物語るようにそれぞれの谷を望む高台に数多くの古墳が点在している。

そのうちの今井神社古墳は5世紀

代に荒砥川の河口近くに造られた大型の前方後円墳で、この地域が最も肥沃な水田地帯であったことがわかる。また、7世紀代の円墳が散在する地域であることから、この地域がその後も水田耕地の拡大によって豊かな水田地帯であったことも見てとれる。



今井神社古墳 全長71mの前方後円墳 5世紀後半



堀越古墳



堀越古墳の石室内部



鏡手塚古墳 月田古墳群にある全長28mの前方後円墳 6世紀



壇塚古墳 月田古墳群にある直径20mの円墳 6世紀後半



新田塚古墳 直径30mの円墳 7世紀



オブ塚古墳の石室内部 全長35mの前方後円墳 6世紀後半



荒砥富士山古墳 直径36mの円墳(発掘時) 7世紀末



稻荷塚古墳



五代大日塚古墳



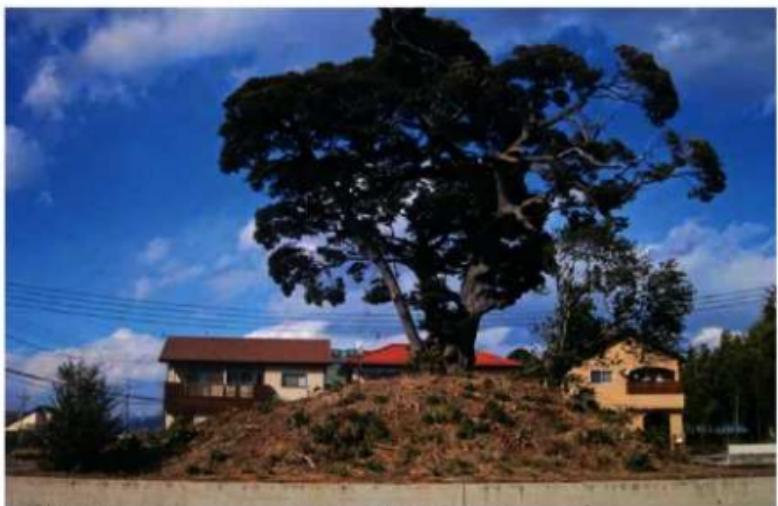
九十九山古墳の石室部 全長60mの前方後円墳 6世紀中頃～後半



白山古墳(石室部分が残されている)



白山古墳の出土遺物(複製品)



荒子杉山古墳 直径30m、高さ4mの円墳 7世紀中頃～後半



塩原塚古墳 直径14mの円墳 7世紀初頭



埴輪 踊る男子像 高さ63cm 古墳時代 6世紀後半

五代町中原の小古墳から出土し、芳賀小学校に保管されている。両手を挙げた歌舞の様子を表していることから“踊る男子像”といわれている。埴輪は墳丘に置かれるが、黄泉国での死者の生活を表現したものであるとも、葬送礼儀の様式を表したものともいわれている。いずれにしても埴輪群の中には琴を奏でる人物などとともに歌舞音曲の世界をみることができる。

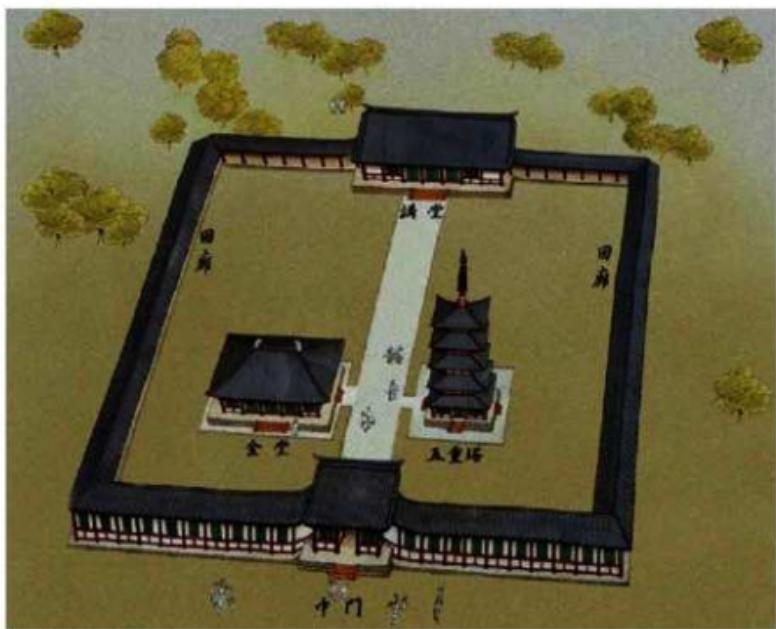
東国最古の寺 山王廃寺



上野国府や国分僧寺・国分尼寺がある總社・元總社地域は古代上野国の中心地だった。大正年間にこの地で古代寺院の塔心礎が見つかり、昭和3年に「山王塔跡」として国史跡に指定された。

この心礎は日枝神社境内で見つかり、一辺17mの基壇上にあった。周辺からは多くの瓦が出土している。また、この心礎に伴う七葉の蓮弁をかたどった根巻石や、堂宇の屋根を飾った石製鶴尾も二つが見つかっている。

その後、この寺院跡は「山王廃寺」と命名されて現在は史跡整備に向けた発掘調査が続けられている。それによると中門と講堂に接続された回廊に囲まれた寺域内に金堂と塔がある法起寺式伽藍であったことがわかつてきした。なお、出土瓦の年代から創建は7世紀中頃で廃絶期は10世紀頃と推定されている。出土瓦のなかに「放光寺」の文字があり、この寺が特別史跡山上碑の碑文（高崎市山名町）にある「放光寺」であるとともに上野國交替実錄帳にある「定額寺放光寺」であることがわかつた。



山王庵寺復元想定図



塔心柱根巻石 塔の心柱を飾る根巻石。心礎と心柱の復元模型は総社資料館に展示されている。



石製鶴尾 個人蔵で輝石安山岩製のもの。



石製鶴尾 日枝神社にある角閃石安山岩製のもの。

緑釉水注、碗、皿 寺域周辺から出土したもので県立歴史博物館で常設展示されている。





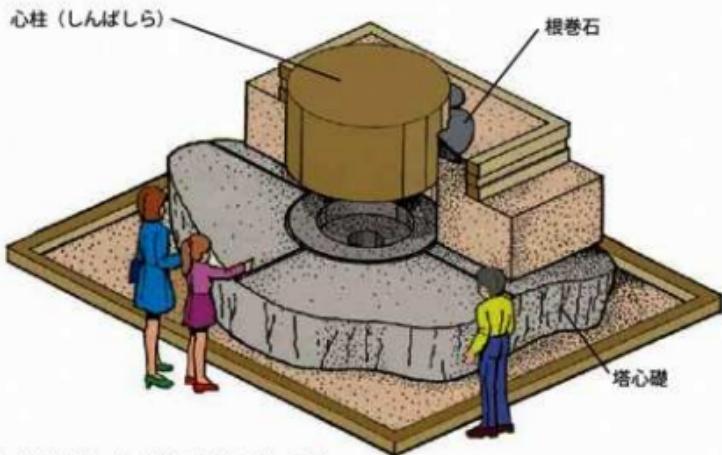
出土した瓦



出土した塑像



塔心礎 塔の中心部に造られている。舍利孔部分



塔の基礎を飾った根巻石と塔心礎の関係
を示した復元図



山麓に横たわる 謎の用水堀 女堀

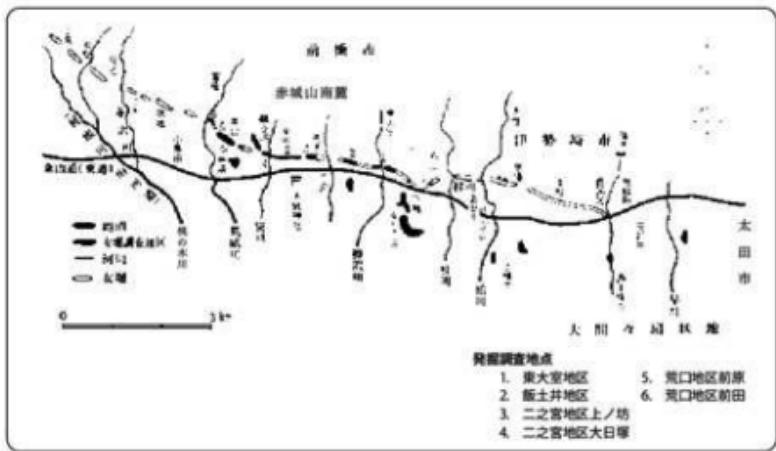
女堀はその名称から、推古帝か北条政子などの「女天下の時に掘られた堀」とか、戦乱で男が出陣していたときに「女が簪で掘った堀」などの伝承があった。発掘調査では、12世紀代に開削された農業用水路であるが工事は中断されて未完成であったことがわかった。その原因は、未熟な測量技術や戦乱による開削主体の没落などが考えられている。

女堀は取水点の前橋市上泉町から終末点の伊勢崎市田部井町までの約13kmを開削する計画であった。取水河川は桃の木川説と藤沢川説がある。送水目的は、浅間山噴火で疲弊していた佐位郡域(現在の伊勢崎市東部)での淵名荘立荘にともなう水田の再開発にあったと考えられている。女堀は災害復旧や莊園開発の歴史を知るうえで重要な遺跡である。

二之宮地区の女堀



二之宮地区の女堀 赤城山麓の地形に沿って曲線的になっている。上方の林は掘削された堆土の山



女堀通過地点の概略図

飯土井地区の女堀



飯土井地区の発掘 挖削が完成した形。上幅が20~25mで底面の中央に幅5mの通水溝が設けられている。後方の未発掘部分は国指定史跡として保存されているところ。

東大室地区の女堀





東大室地区的発掘 掘削途中で中断された形。右側は当時の畠跡で掘削排土を運搬した作業道が一本も付いている。



富田地区の女堀



東大室地区(城南工業団地内)の女堀 両側に排土の山がある。



神たちの集う 総社神社

現在の総社神社は永禄年間(1560年頃)に遷宮されたとの社伝がある。社殿のけやき巨木は荘厳な社地を醸し出している。本殿は木造柿葺きの三間社流れ造りで桃山風の様式をよく示している。拝殿は文化12年(1815)から天保14年(1843)にかけて造られた入母屋造りの建物で、勾欄の擬宝珠には天保三年九月吉日の銘がある。また、脇障子の透彫りは江戸後期の特徴を現した優作である。

古代上野国には数多くの神社があり国司はそれらの神社の管理や祭祀をすることが任務とされていたが、11世紀頃になると巡拝に煩いがあるために国内の祭神を集めた総社神社が成立した。総社神社に残る「総社本上野国神名帳」には鎮守十社・摂社五百四十九社が記載されている。



社叢けやき 約5,000m²の境内地にあるケヤキの巨木6本が市の天然記念物に指定されているが、そのうちの1本は目通りの周りが6mもあり総社神社の御神木になっている。

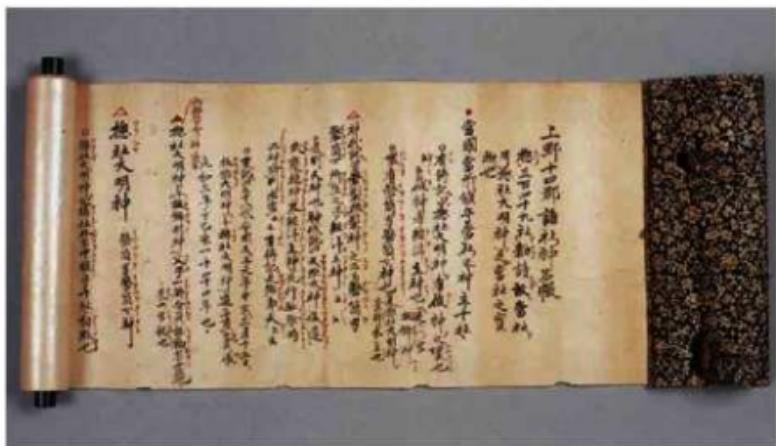


本殿 さわらの柿葺。壁面に松竹梅が描かれている。江戸時代



拝殿 屋根は千鳥破風の付いた銅板葺 江戸時代

神たちの集う総社神社



総社本上野国神名帳 奥書に永仁6年(1298)と弘治3年(1557)の書写とある。



総社神社太々神楽 神社の祭礼日である3月15日に奉納される。発祥の年は不明だが元治元年(1864)に書かれた「大神楽次第」が残されている。



懸仏 左は鉄製の円盤に半肉彫りの弥勒菩薩が鋳出されたもので直径29cm、右は青銅板に普賢菩薩が線刻されたもので直径9.4cm 安土桃山時代



雲版 銅製の打ち鳴らしのための仏具で大正年間に境内の杉の根元で発見されたもの。縦40cm、横32cm 鎌倉時代

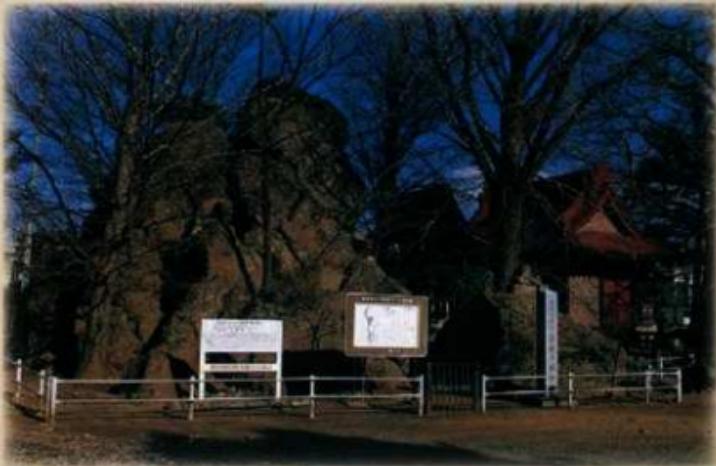


筒粥式

総社神社の筒粥置炭式 筒粥によりその年の農作物の豊凶を占い、置炭により各月の天候を占う神事で、1月14日の真夜中におこなわれる。



置炭式



岩神の飛石 裕和町三丁目

利根川の左岸に忽然とある周囲70m、高さ20mの巨岩で、地元では赤城山から飛んできたとの伝承がある。火山噴火の際に火口近くで飛び散った溶岩が堆積したもので山体崩壊にともなって発生した泥流で運ばれてきた。かつては赤城山の噴火によるものとされていたが、最近では浅間山起源で2万4000年前に発生した前橋泥流とともに前橋にもたらされたものであろうといわれている。



赤城の裾野に 集う神たち

赤城山は古代より里人の信仰の山として崇められていた。山頂の大沼のほとりには大洞赤城神社があり、山麓には三夜沢赤城神社(三夜沢町)と二宮赤城神社(二之宮町)がある。赤城神社は「延喜式」に掲載されている上野国十二社のうちのひとつで、「神道集」では上野国の二宮に列せられている。それがどの神社であるかは不明である。

また、産泰神社(下大屋町)は安産や養蚕の守護神として信仰を集めてきた。社殿は前橋藩主酒井氏の尊崇をえて前橋城の方向を向いている。

三夜沢赤城神社



本殿・中門 明治2年(1869)上棟という記録がある。



本殿内宮殿 総高1m17cmで唐様仕上の宝形造りで扉に「源成繁寄納」の墨書がある。室町時代



社宝の勾玉 長さ7.62cm



惣門 弘治2年(1556)建立の記録がある。



三夜沢赤城神社太々神楽 5月の例大祭・元旦に奉納される。

二宮赤城神社



二宮赤城神社の社地 中世の環濠遺構を思わせる堀や地割りがある。社地内には本殿・神楽殿・随神門・舞台などのほかに塔心礎の遺構があり神仏習合を思わせる。



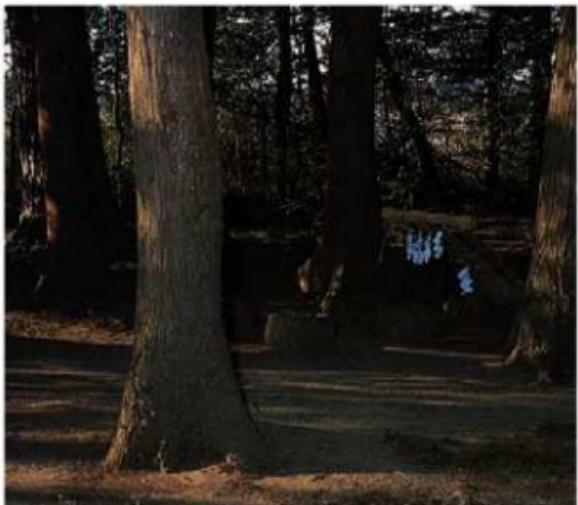
宝塔 かつては全体に黒漆が塗られていためずらしいもので、今でもその痕跡がみられる。



納曾利面 舞楽面であるが近年は雨乞い神事として使われていたもので、裏面に享徳2年(1453)の漆書きの銘がある。室町時代



御神幸 地元では“おのぼり”といい、毎年4月と12月の初辰日におこなわれる。二宮赤城神社の神が三夜沢赤城神社へ渡御し五穀豊穣を祈願する神事



興懸 御神幸の際に河原浜町の近戸神社(現 大胡神社)と柏倉町のここで休憩する。その際に阿久澤家で接待をする。



絵馬 元和元年(1615)に大胡城主牧野駿河守忠成が大坂夏の陣の戦勝祈願として奉納した二枚一対の繋ぎ馬(上)、前橋藩主酒井雅楽頭が奉納した鞍付きの馬二枚一対(下)がある。どちらも金箔地の豪華なものである。江戸時代前期



梵鐘 二宮赤城神社の神仏習合の様子を知るものとして「赤城山神宮寺」の入った銘文が刻まれている元和9年(1623)に铸造されたもの。江戸時代



二宮赤城神社太々神楽 式三番叟とともに毎年4月15日の春祭りに奉納される。天津姫と先達が清浄水と二宮赤城神社のいわれについて掛け合いを述べる「水次ぎの舞」がある。



式三番叟伝授書 明治26年(1893)に書き写された伝授書によって奉納される。

産泰神社



本殿・幣殿・拝殿 前橋藩主酒井家の尊崇が厚かったことから前橋城を守護して西向きに建てられている。江戸時代の代表的な建造物で本殿には宝曆13年(1763)の棟札がある。このほか、随神門を含む境内地が県重要文化財の指定を受けている。江戸時代後期



八稜鏡 八枚の花弁を縁取りと内区に形どったもので二羽の鳳凰が意匠されている優れた鋳出し技法である。直径16.6cm 平安時代



仏の造形

前橋市内には名刹や古刹の寺院が多くあり、それぞれ仏教史的にも重要な仏像がある。赤城山とその山麓には信仰世界が広がっていた。平安時代に発生した観音信仰や浄土信仰は仏像美術として開花する。

市内には平安時代を代表する仏像が二体ある。その一つは無量寿寺にある十一面觀音で、創建にさいして本山の護國寺（現東京都文京区）からもたらされたものという。柔かな顔つきは慈悲深さをみごとに作出しており観音信仰の心を映し出している。また、日輪寺の十一面觀世音は丸盤で仕上げたのみの「鉈彫」と呼ばれる技法で作り上げた桂材の一木造りで、一見すると荒々しくもあるが優美なすがたを醸し出す秀逸な作風である。

鎌倉時代になると赤城信仰も顯在化して、千手觀音と虛空藏菩薩に地蔵菩薩が加わって信仰の山としての形が整った。

慈照院の千手觀音坐像は二宮赤城神社の本地仏とされている。無量寿寺の地蔵菩薩立像は赤城山の地蔵信仰の発生に伴って招来されたものなのだろうか。

善勝寺の鐵仏は青銅製の頭部と両手を「鎚ぐるみ」という手法で嵌め込んでいる。背面に「仁治四年」の銘文とともに「大勸進僧心裡」とあり勸進僧の名もわかっている。鐵仏は武士の信仰世界で広まったものとの見解もある。

ここでは寺院の堂内に安置している仏たちを紹介しよう。



日輪寺の十一面觀世音像 桂材の一木造りで鉈彫の技法の像。像高 1m29cm 平安時代



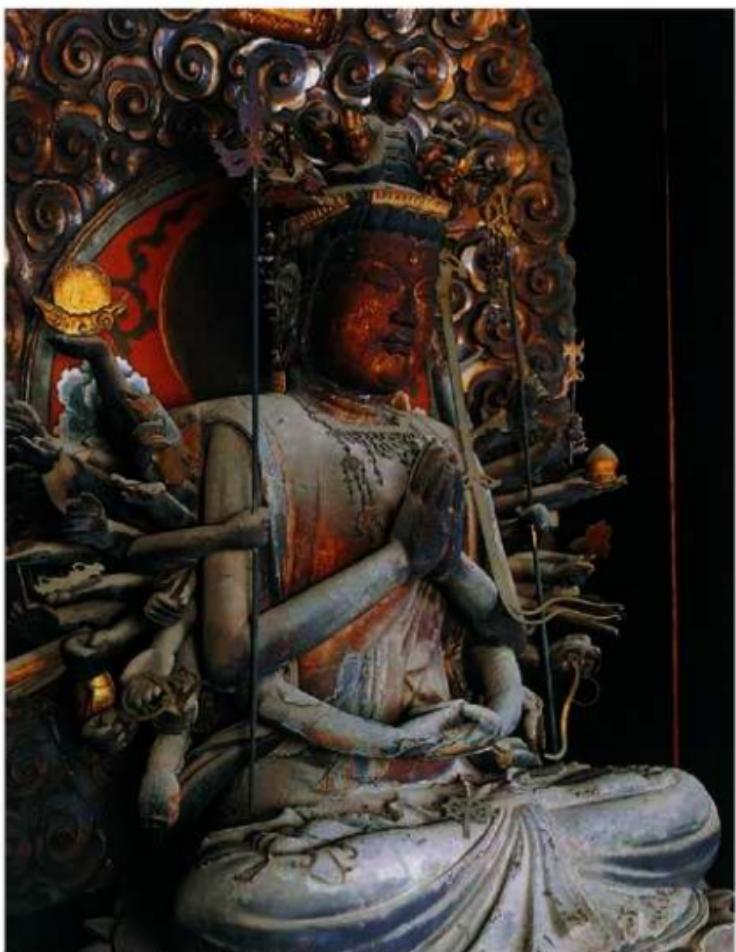
善勝寺の鉄造阿弥陀如来坐像 県内唯一の鉄造仏で、頭部と両手は金銅製である。高さ87cm 鎌倉時代



無量寿寺の十一面觀音立像 本寺の創建に際して護国寺から招来されたものと言われている。像高71.5cm 平安時代



無量寿寺の地蔵菩薩立像 寄木造りで重量感がある。像高 1m85cm 鎌倉時代



慧照院の千手觀音坐像 二宮赤城神社の本地仏であったという。像高93cm 鎌倉時代



円満寺の薬師如来坐像 檜の寄木造りの結跏趺座像である。像高48cm 鎌倉時代



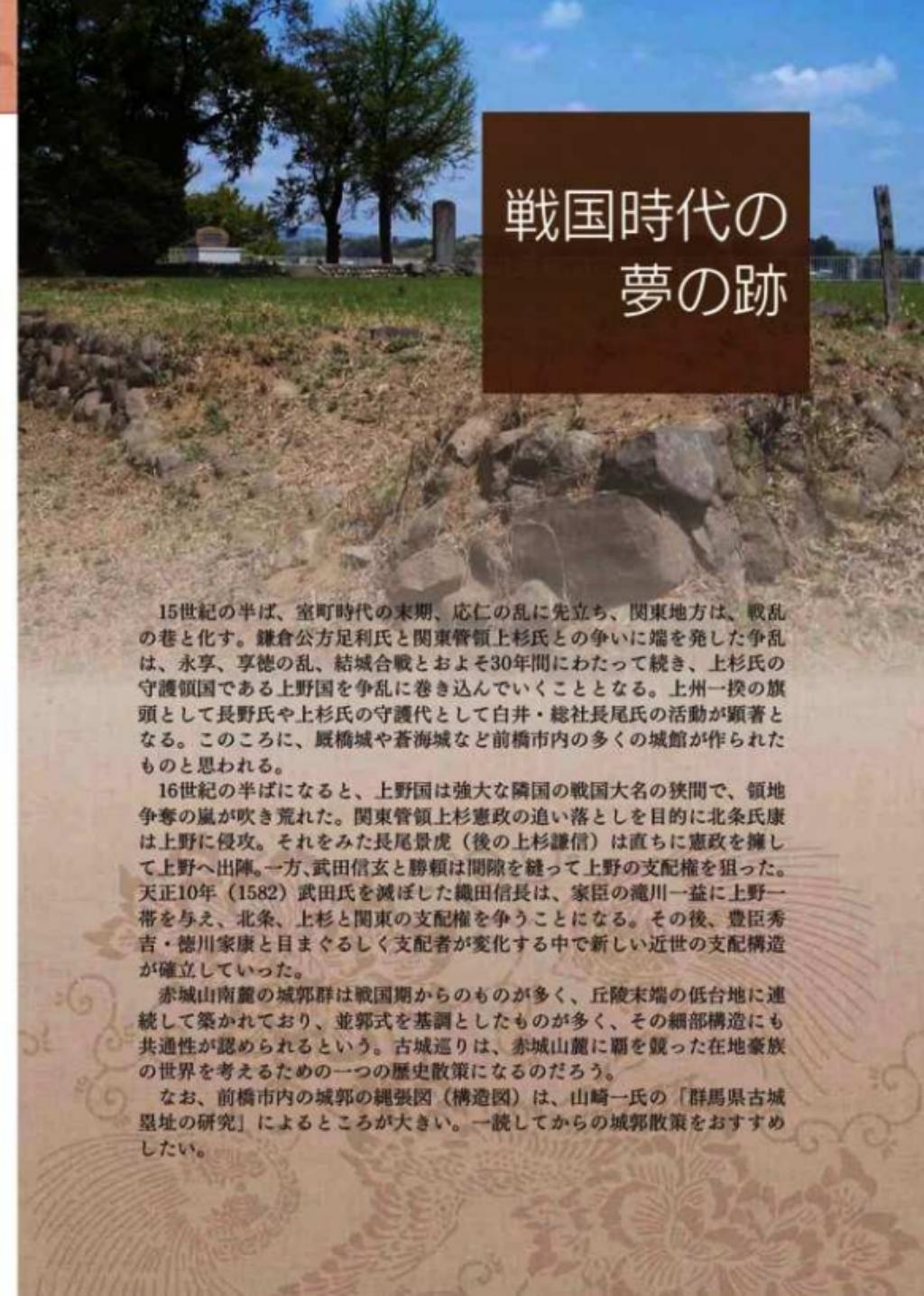
萩林庵の阿弥陀像 銅製の立像。背面に応永34年(1427)の銘がある。室町時代



金剛寺の十一面觀音坐像



多福寺の木造十一面觀音立像 行基菩薩作との言い伝えがある。県内最古級の木像仏で一木造り 像高175.5cm



戦国時代の 夢の跡

15世紀の半ば、室町時代の末期、応仁の乱に先立ち、関東地方は、戦乱の巷と化す。鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏との争いに端を発した争乱は、永享、享徳の乱、結城合戦とおよそ30年間にわたって続き、上杉氏の守護領国である上野国を争乱に巻き込んでいくこととなる。上州一揆の旗頭として長野氏や上杉氏の守護代として白井・総社長尾氏の活動が顕著となる。このころに、厩橋城や蒼海城など前橋市内の多くの城館が作られたものと思われる。

16世紀の半ばになると、上野国は強大な隣国の大名の狭間で、領地争奪の嵐が吹き荒れた。関東管領上杉憲政の追い落としを目的に北条氏康は上野に侵攻。それをみた長尾景虎（後の上杉謙信）は直ちに憲政を擁して上野へ出陣。一方、武田信玄と勝頼は間隙を縫って上野の支配権を狙った。天正10年（1582）武田氏を滅ぼした織田信長は、家臣の滝川一益に上野一帯を与え、北条、上杉と関東の支配権を争うことになる。その後、豊臣秀吉・徳川家康と目まぐるしく支配者が変化する中で新しい近世の支配構造が確立していく。

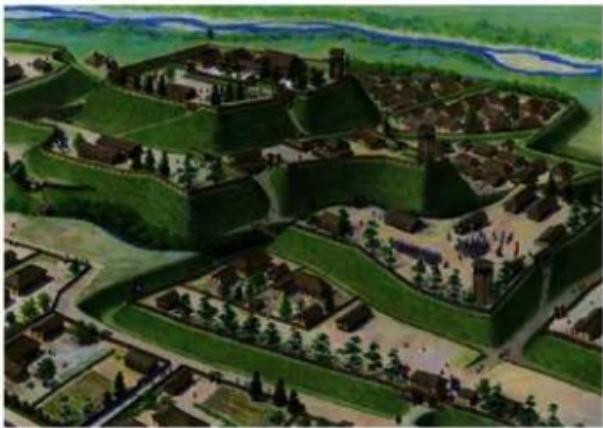
赤城山南麓の城郭群は戦国期からのものが多く、丘陵末端の低台地に連続して築かれており、並郭式を基調としたものが多く、その細部構造にも共通性が認められるという。古城巡りは、赤城山麓に堀を駆った在地豪族の世界を考えるために一つの歴史散策になるのだろう。

なお、前橋市内の城郭の縄張図（構造図）は、山崎一氏の「群馬県古城墨跡の研究」によるところが大きい。一読してからの城郭散策をおすすめしたい。

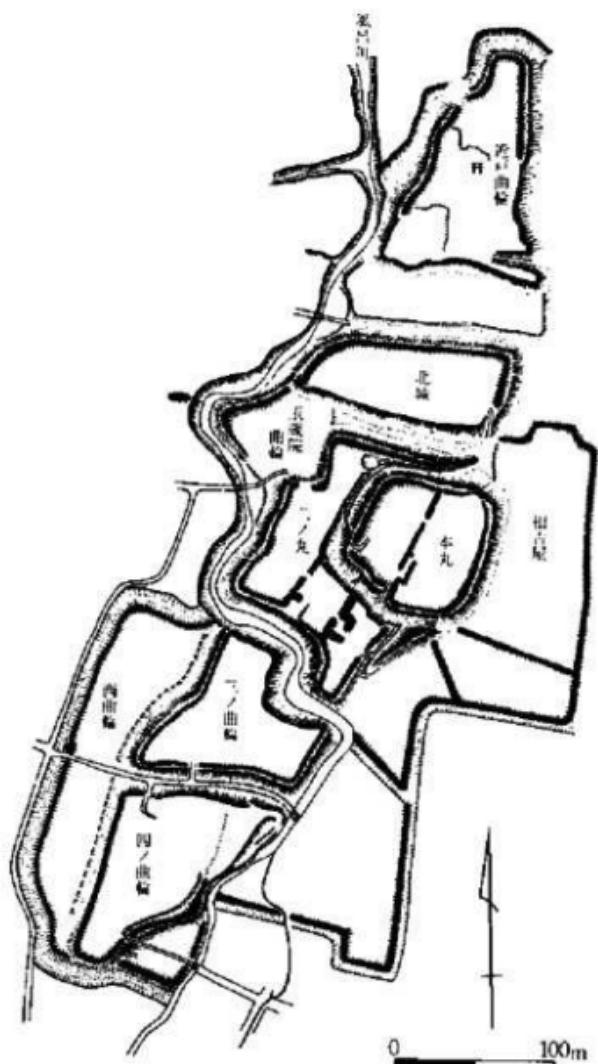
大胡城跡



大胡城跡 一部に出城を持つ並郭式の平丘城。天正年間から大胡氏・牧野氏が居城したが、その後に前橋藩領となり城代が置かれたが、寛延2年(1749)酒井氏の姫路転封とともに廃城となった。



大胡城想像図



大胡城縄張図

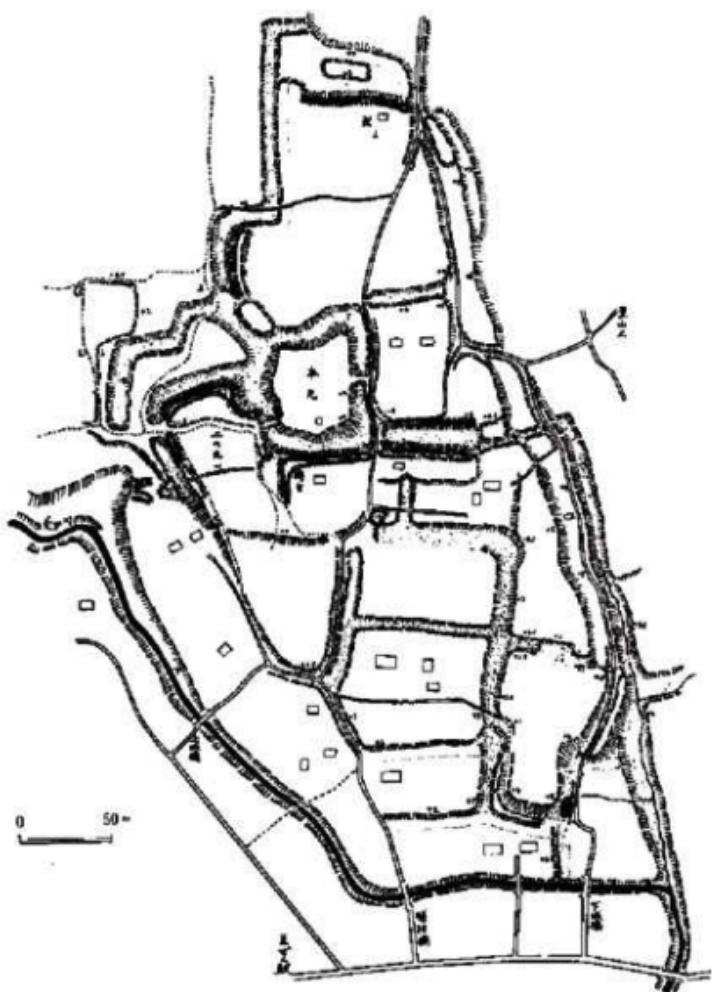
膳城跡



膳城跡 山上城と一城別郭の構え。享徳年間の存在が想定されている。膳氏の居城



膳城跡本丸



勝城縄張図

女渕城跡



女渕城跡 永禄年間にはあったと想定されている。城郭中央に大きな貯水施設がある。

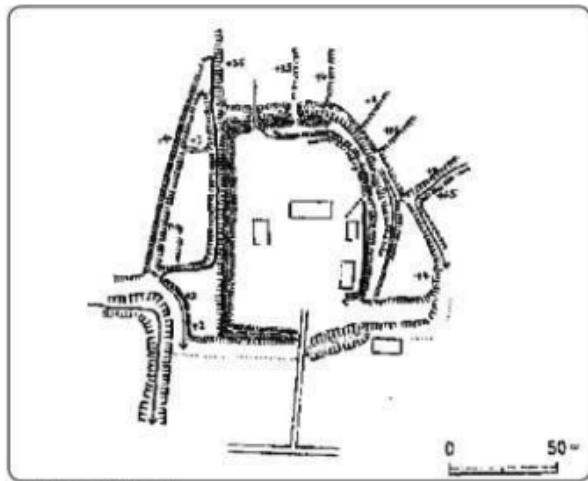


女渕城縄張図

柏倉殿替戸砦跡



柏倉殿替戸砦跡 囲郭式の複郭

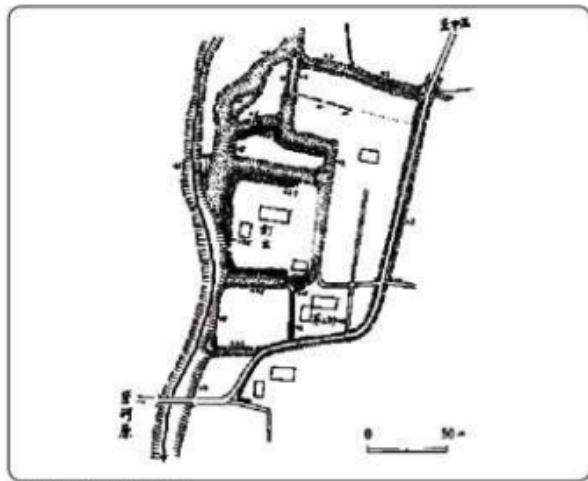


柏倉殿替戸砦縄張図

大前田内出居砦跡



大前田内出居砦跡 囲郭式で本郭・帯曲輪や土居の保存が良い。苗ヶ島城・大胡城の出城

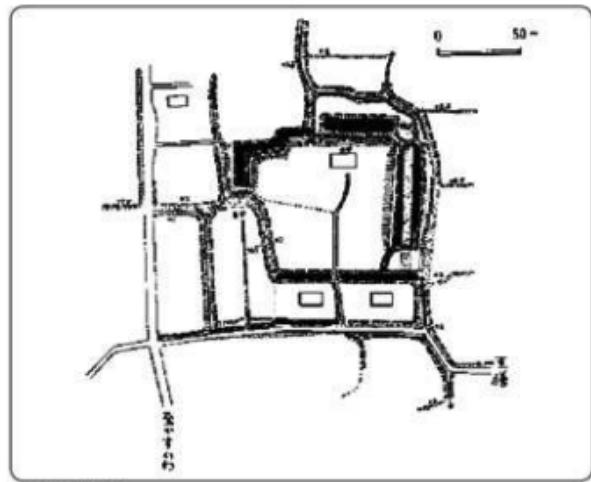


大前田内出居砦縄張図

中村城跡



中村城跡

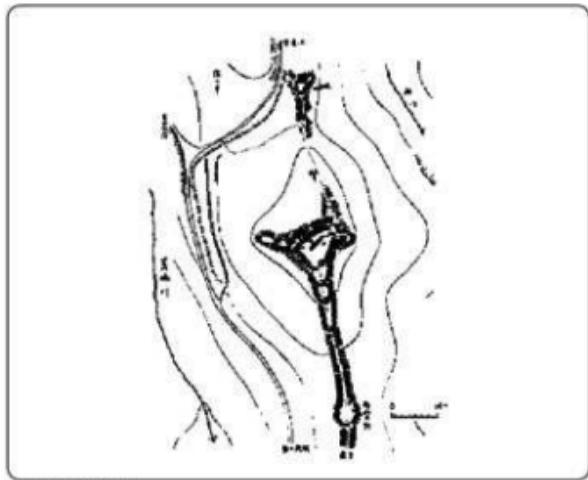


中村城縄張図

宿の平城跡



宿の平城跡 山麓丘陵部の山城で苗ヶ島城の要害城だったのか。



宿の平城縄張図

前橋城と その城下町

徳川家康によって「関東の堀」と称された前橋城は江戸幕府の北の押さえとして重要な拠点であった。築城は15世紀頃からはじめられ、酒井家の時代になってその全容が完成したといわれている。現在も石垣が残る車橋門跡は外曲輪と加内(金井)曲輪をつなぐ門である。

酒井家は下馬将軍ともいわれた大老酒井忠清公を輩出した名門でもあり、前橋城には寛延2年(1749)に酒井忠恭公が姫路へ転封されるまでの九代149年間にわたって在城した。龍海院は酒井家の菩提寺で、慶長6年(1601)に酒井重忠公の転封とともにこの地に建立され、境内には前橋藩主および姫路藩への転封後の歴代藩主などもふくめて17基の酒井家歴代の墓所があり、江戸時代の大名墓地としての莊厳な雰囲気をかもしだしている。源英寺には初代重忠の画像がある。

その後、酒井氏は寛延2年(1749)姫路に転封となる。替わって前橋城には、姫路から松平朝矩が入る。しかし、酒井氏在城の貞享頃(1684~1687)から利根川によって浸食されてきた前橋城は、いよいよ城を保つことができなくなり、松平氏は、明和4年(1767)に川越に移り、前橋城は廃城。城は破却される。以後、前橋は、川越藩の分領として、慶応3年(1867)に前橋城が再築され、松平直克が前橋に入るまで、陣屋支配を受けることになる。しかし、川越に城は移っても、前橋は川越藩にとって最大の藩領であり、重視されることになる。孝顯寺の御靈屋には松平家藩主代々の画像が結城家法度を制定した結城政勝画像とともにある。前橋の総鎮守であった八幡宮には、酒井家以前の前橋支配に関する重要な文書が残されている。

前橋は城下町として活発な町民文化が栄えていった。祇園祭りは一年中でもっとも賑わう行事で、どの町からも競って芸屋台や飾り物がくり出し、前橋城内まで練り込んだ。その華やかな様子をあらわした絵巻が残されている。また、藩政を記録した酒井家資料や松平家記録には、城下町の庶民生活までが書き残されている。



前橋藩主酒井氏歴代墓地 初代重忠夫妻から15代忠頸までの前橋藩主・姫路藩主、初代および6代伊勢崎藩主を含めて17基がある。ほかに、酒井弾正の墓がある。江戸時代 龍海院



2代藩主酒井忠世の墓 幕府の老中を務めた。



4代藩主酒井忠清の墓 幕府の大老を務めた。



前橋城車橋門跡 大手町 前橋城の外曲輪から加内(金井)曲輪を結ぶ大手筋にあった。4代藩主忠清の代に冠木門から渡櫓門に改築されたという。現在の門は区画整理により間隔が狭められている。江戸時代



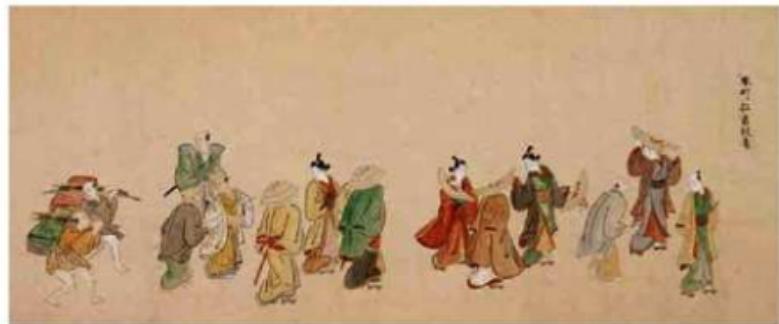
酒井家史料 江戸時代の前橋の様子や幕臣としての政務などが記されている。江戸時代 前橋市立図書館

酒井重忠画像 画長63.5 cm、画幅32cm 初代前橋藩主。重忠自筆と言われている。江戸時代 源英寺

前橋城とその城下町



露払い 万燈 神馬 本町の背負い飾物



本町の狂言役者一行 挟箱を担いだ奴



本町の背負い飾物 小間物屋の宣伝をする女 片貝町の芸屋台

前橋祇園祭礼絵巻 宝暦3年(1753) 前橋市立図書館



本町の背負い飾物 本町の花売り娘 板屋町の飾屋台



本町の背負い飾物 白銀町の鉢の山車



供人 植木鉢



鉢の担ぎ山車 供人 神輿



鍛冶町の芸屋台 田町の芸屋台



向町の芸屋台 諏訪町の芸屋台



付人 桑町の移動角力



連雀町の芸屋台 豊町の芸屋台



本町の背負い飾物 豊屋町の芸屋台



供人2人 本町の背負い飾物 紺屋町の飾屋台



中川町の飾屋台 天川新町の飾屋台



本町の背負い飾物 天川町の飾屋台



本町の背負い飾物 広瀬河岸の飾屋台



本町の背負い飾物 供人 横町の飾屋台



本町の背負い飾物 細ヶ沢町の飾屋台



本町の背負い飾物 付人 棲町の芸屋台



本町の背負い飾物 十八郷町の飾屋台

前橋城とその城下町



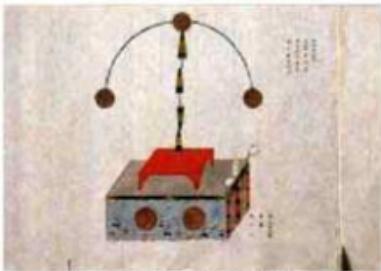
本町の幡 2本 かじまち獅子頭の飾物



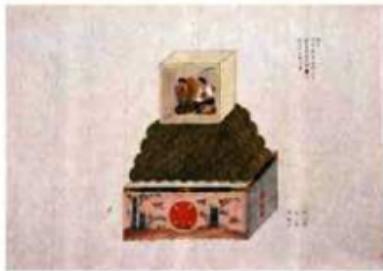
本町の四つ車の御幣束万燈



紺屋町の闘鶏の飾物



桑町の弥次郎兵衛の飾物



連雀町の恵比寿大黒の飾物



天川新町の渡辺綱鬼退治の絵馬

前橋祇園祭礼絵巻 文政11年(1828) 前橋市立図書館



中川町の菊畠の飾物



諏訪町の唐獅子の香炉飾物



小川町の祇園神額の飾物



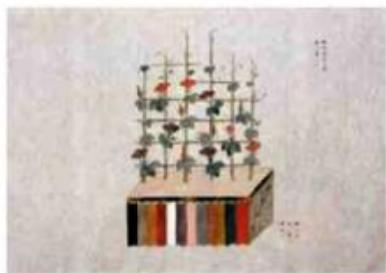
十八郷町の御守、御祈祷札の飾物



天川町の近江八景堅田の落雁の硯蓋飾物



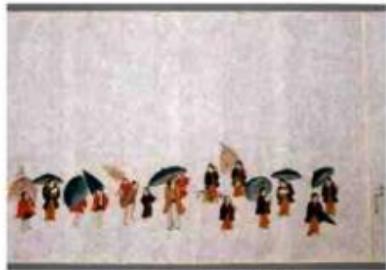
萱屋町の金時と熊の飾物



白銀町の朝顔の垣根咲の飾物



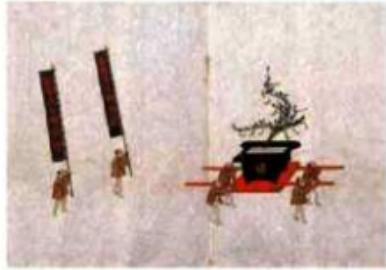
向町の盃の飾物



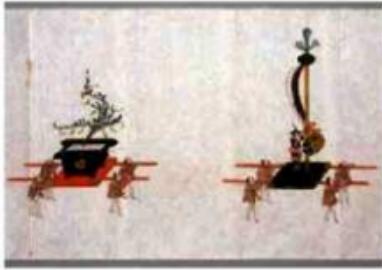
本町の狂言役者の行列



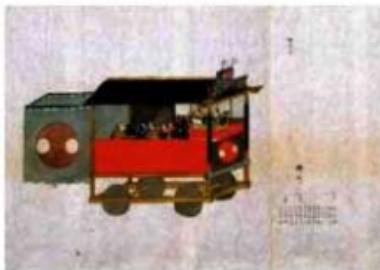
片貝町の生花掛の飾物



幟



鉢 桦



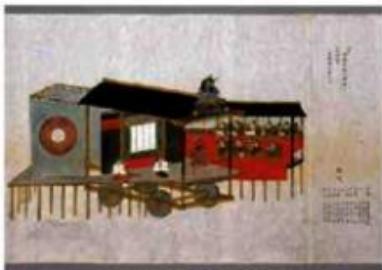
横町の操人形の芸屋台



天王の神輿



田町の芸屋台



鶴町の歌舞伎芝居の芸屋台



板屋町芸屋台の移動実況図



松平藩主画像 画長1m、画幅40cm 初代直基から8代斉典までの8点がある。江戸時代 孝顕寺



前橋藩主松平家奉納能装束一式 面10点を含む13件39点があり、12代藩主直方が寄進したとされている。江戸時代 東照宮



前橋藩主松平家陣羽織 身丈1m、桁28cm 儀仗用に作られたもの。江戸時代 東照宮



前橋藩主松平家軍配 長さ46cm、幅16.8cm 片面に陰陽道を取り込んだ兵法の配置図が丸く入り、もう片面には2代藩主直矩の名、位、出自等が入っている。江戸時代 東照宮



結城政勝画像　画長65cm、画幅35cm
結城政勝は下総国結城の戦国大名で、
「結城家法度」を制定した。室町時代
孝顕寺

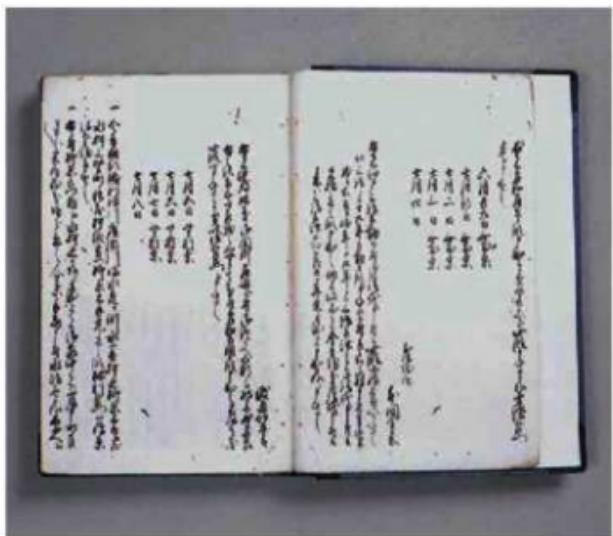


伯牙彈琴鏡　八幡宮境内の古墳から出土した唯一の遺物として伝えられており、琴の名人伯牙の故事を題材とした文様が鋳出されている。直径17.2cm
奈良時代　八幡宮



出土した皆沢焼　群馬県立埋蔵文化財センター

皆沢焼窯跡　前橋城内の高浜焼とともに文化12年(1815)以前に開業した。その後文政5年(1822)からは民窯として天保15年(1844)過ぎまで操業していたらしい。



前橋藩松平家記録 松平家の用番家老が元禄2年(1689)から明治2年(1869)まで、日々の政務のなかで重要と思われることを書いたもの。現在は活字本全39巻として刊行されている。江戸～明治時代 前橋市立図書館



八幡宮文書 一巻九通 八幡宮に社宝として伝えられている。元亀2年(1571)の北条高定の寄進状や慶安2年(1649)の酒井忠清の安堵状などからなる。安土桃山～江戸時代 八幡宮



神明宮の甲冑　社伝では、酒井氏が姫路へ転封するにあたって寄付したものといわれている。



前橋藩家老小河原左宮の甲冑 幕末の前橋藩筆頭家老である、小河原左宮政徳着用のもの。左宮は上総国富津の台場守衛の総督となったが、藩と藩士を救うため、旧幕府の撤兵隊の要求に応じ陣屋の武器・食料を渡し、家老として一切の責任を負って自刃した。江戸時代



御里御坊 妙安寺

妙安寺は親鸞ゆかりの寺である。妙安寺は当初は親鸞の高弟二十四人のうち第六番目の成然によって下総国猿島(現茨城県)に創建されたが、その後は前橋藩主になった酒井重忠の招請によって川越、前橋と移ったという。徳川家康が創建させた東本願寺に妙安寺にあった親鸞自作の木彫壽像を譲った縁で葵紋免許を得たことから御里御坊と称された名利である。そのため寺宝には家康から恩賞として贈られた数多くの書画・什物が残されている。そのうちの後陽成天皇宸翰古歌御色紙や親鸞・成然両上人に関する絵伝や絵画は圧巻である。また、妙安寺住職によって書き綴られた一谷山記録は江戸時代初期の東本願寺や前橋藩の歴史を知るための重要な史料になっている。

現在、寺宝の多くは県立歴史博物館に保管されており、一部が常設展示されている。境内には南北朝時代の作とされる梵鐘がある。



絹本着色親鸞聖人像 妙安寺が東本願寺に親鸞木像を譲渡するにあたり、拝領した什物の一つである。画長82cm、画幅74cm 室町時代



絹本着色聖徳太子孝義像(六臣) 孝義像とは16歳の聖徳太子の姿である。聖徳太子の下に小野妹子、蘇我馬子、僧日羅、秦河勝、阿佐太子、恵慈の6人が描かれている。画長1m5cm、画幅49.2cm 室町時代



絹本着色聖徳太子孝義像 柄香炉を持った聖徳太子が描かれている。画長1m3cm、画幅52.1cm 南北朝時代



絹本着色親鸞聖人旅姿像 左側に十字名号「謡命盡十方無碍光如來」「訥善信」の墨書がある。「善信」とは、親鸞が法然から授けられた名前である。画長1m3cm、画幅52.1cm 室町時代



絹本着色親鸞・成然両上人像 右側に浄土真宗開祖の親鸞、左側に妙安寺開基の成然が描かれている。画長92.2cm、画幅42.5cm 室町時代



絹本著色真宗七高祖像 親鸞が浄土真宗の祖師とした7人の僧(インドの龍樹、世親、中国の曇鸞、道绰、善導、日本の源信、法然)が描かれている。画長1m5cm、画幅59.2cm 鎌倉～南北朝時代



絹本著色成然上人像 画長1m2cm、画幅39.7cm 室町時代



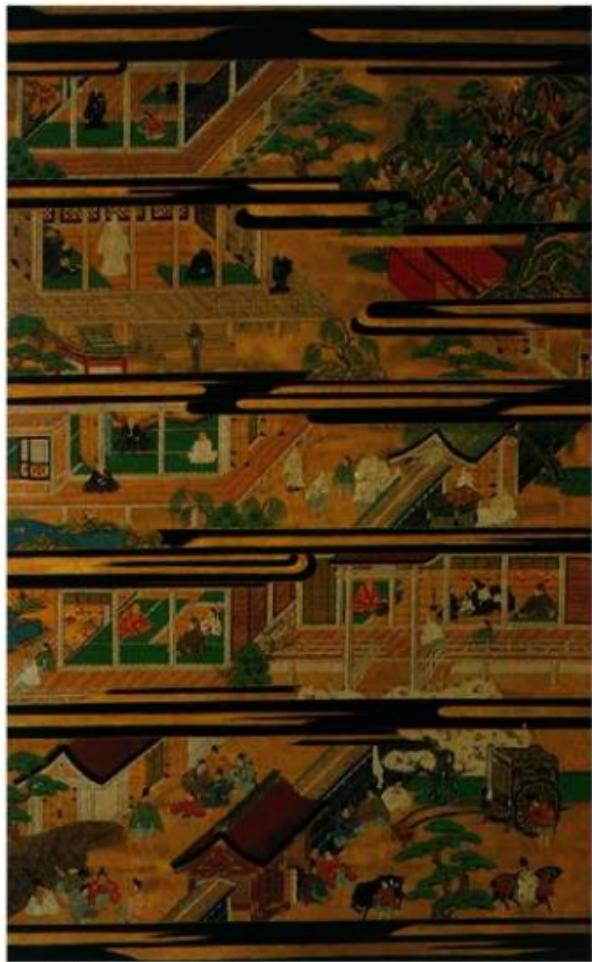
絹本着色成然上人像 画長84.5cm、画幅38.4cm 室町時代



絹本着色成然上人像 画長98cm、画幅41.5cm 江戸時代



梵鐘 「大工想社住人藤原吉久、伊清」「上野國群馬郡既橋一谷山最頂院妙安寺常什物也」と刻まれている。 身高88cm、竜頭16.2cm、口径55cm
南北朝時代



(第一幅)

親鸞、京都青蓮院の慈円和尚に弟子入りする。

親鸞、法然上人に弟子入りする。

親鸞、夢で救世觀音のお告げを受ける。

親鸞の弟子蓮位、夢で聖德太子のお告げを受ける。

絹本着色親鸞上人縁起繪伝 親鸞の生涯を四幅一組二十語で構成している。縦1m92cm、横83.5cm四幅 江戸時代



(第二幅)

親鸞、法然の肖像を描くことと著書を書写することを許される。

親鸞、弟子たちに念佛の教えを問う。

法然、阿弥陀如来を信じることを説く。

親鸞、阿弥陀如来の生まれ変わりといわれる。



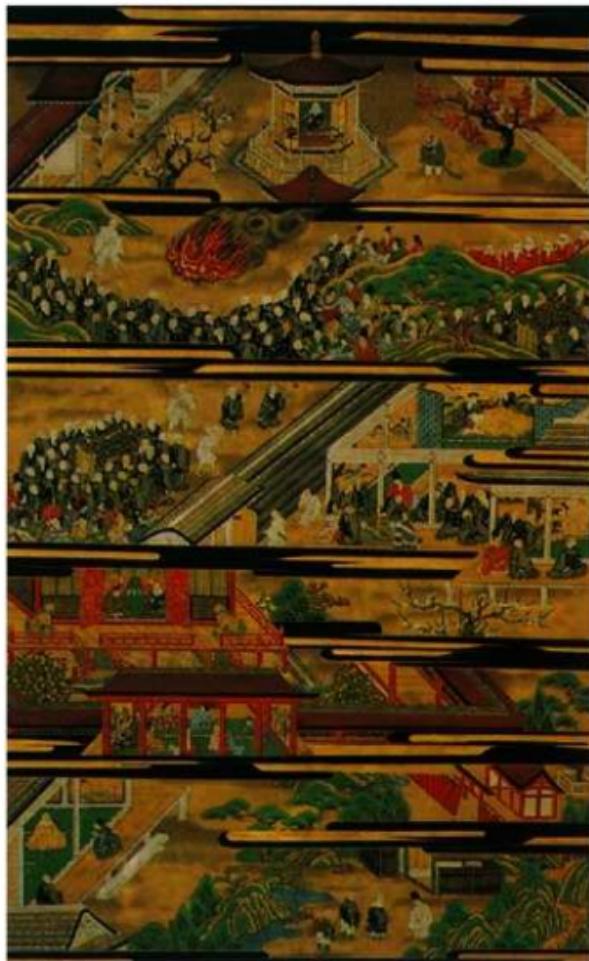
(第三幅)

法然、土佐に流される。

親鸞、越後に流される。

親鸞、罪を許され、越後から関東へ布教する。

山伏伝円、親鸞の弟子になる。



(第四幅)

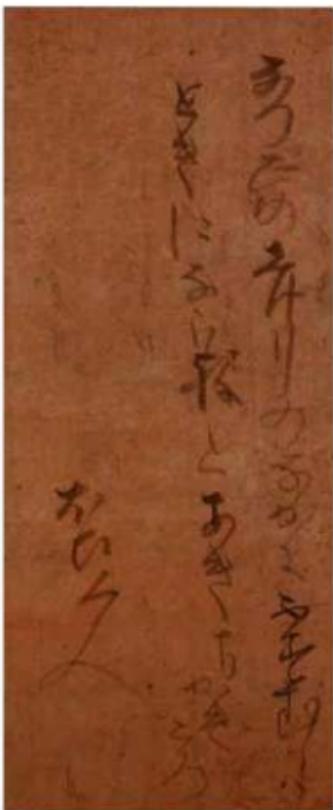
親鸞、箱根の神からもてなしを受ける。

熊野の神は阿弥陀如来である。

親鸞、生涯を閉じる。



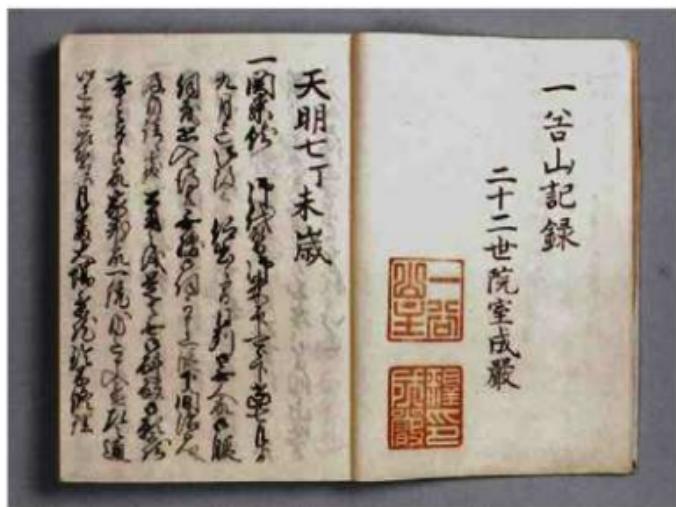
絹本着色九文人合作書画 9人の文人による合作。酒井抱一がほおすきを、谷文晁が団扇を描き、亀田鵬斎が詩文を記している。画長1m 6cm、画幅43.7cm 江戸時代



書跡豊臣秀吉和歌短冊 伝親鸞聖人自作の木像造座の際に、京都東本願寺より与えられたものとされる。「なつ山の志けりのなかに ふすむしハ ときにならねと あきちかきころ 犬ひくへ」とある。画長28.3cm、画幅12cm 安土桃山時代



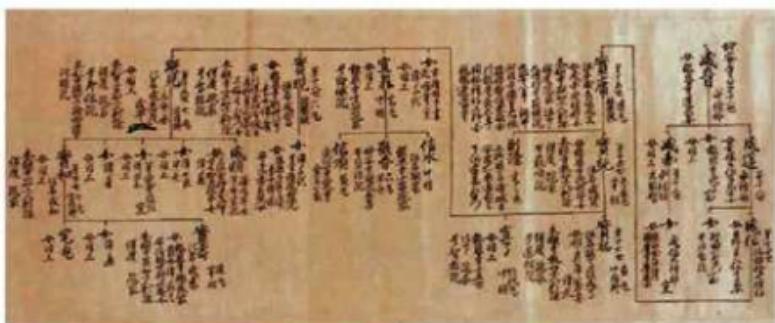
中啓 伝狩野山楽筆扇面図(上が表、下が裏) たたんでも半ば開いて
いるように作られた扇。東本願寺14世法主琢如上人が所持したものと
いわれる。長さ35cm、開面の幅50cm 安土桃山時代



一谷山記録 全八冊 住職21世成恵と22世成嚴により延享3年(1746)から寛政2年(1790)までに作成された。江戸時代



妙安寺筆録(最頂院成賀筆) 冊子本 住職16世成賀が万治2年(1659)に親鸞木像の遷座について記したもの。江戸時代



妙安寺古系図 住職九條家の系図であり、藤原鎌足からの系譜が記されている。江戸時代



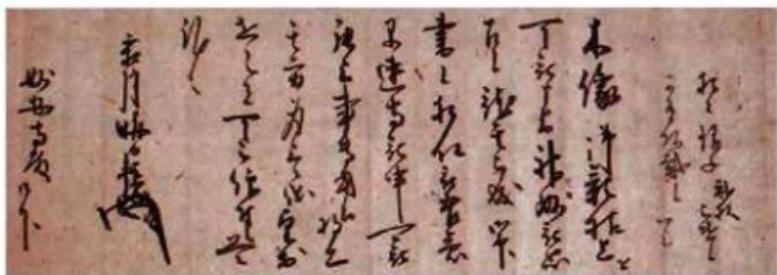
一谷山最頂院妙安寺縁起 上下二巻 承応2年(1653)に妙安寺18世成誓により書かれたもの。江戸時代



唯信鈔(伝親鸞筆) 冊子本 専修念佛の枢要を説いたもので、親鸞直筆と伝えられている。鎌倉時代



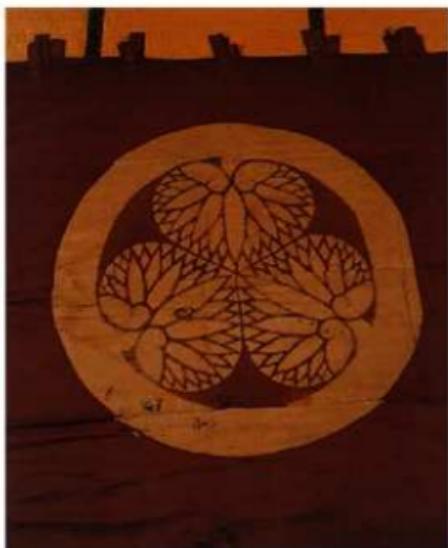
唯信鈔文意(伝成然筆) 冊子本 唯信鈔の難解な部分だけを抽出して注釈を加えたもので、成然筆と伝えられている。鎌倉時代



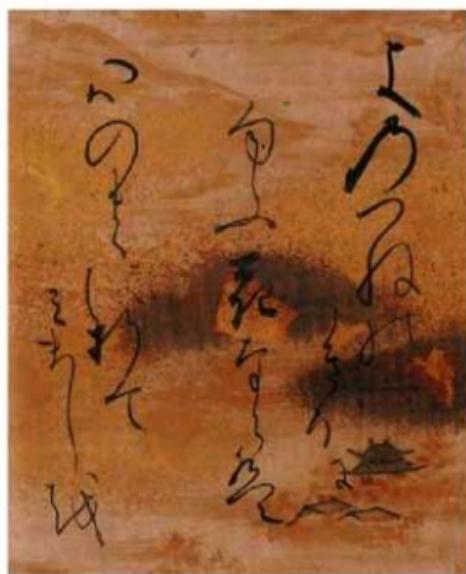
親鸞寿像遷座関係書状 28通 妙安寺から東本願寺への親鸞自作の木像の遷座に関する書状
安土桃山時代



絹本着色蓮如上人像 本願寺第8代の法主蓮如が描かれている。画長95.5cm、
画幅40.6cm 江戸時代



葵紋幕付本多佐渡守正信奉書写 辻ヶ
花染め。写しには慶長7年(1602)とあ
る。安土桃山時代



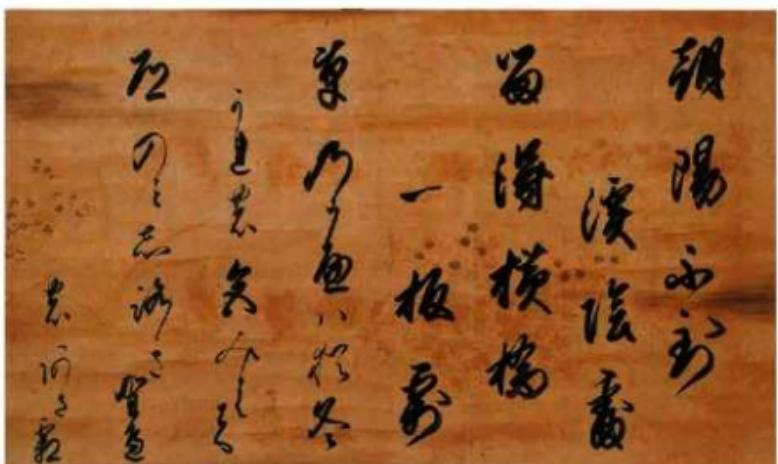
後陽成天皇宸翰古歌御色紙 宸翰とは、天皇の書いた書跡のこと。「よ乃
つね能 うき与尔匂ふ 花なら盤
心のまみに 折てミまし越」とある。
縦21.6 cm、横17.6 cm 安土桃山時代



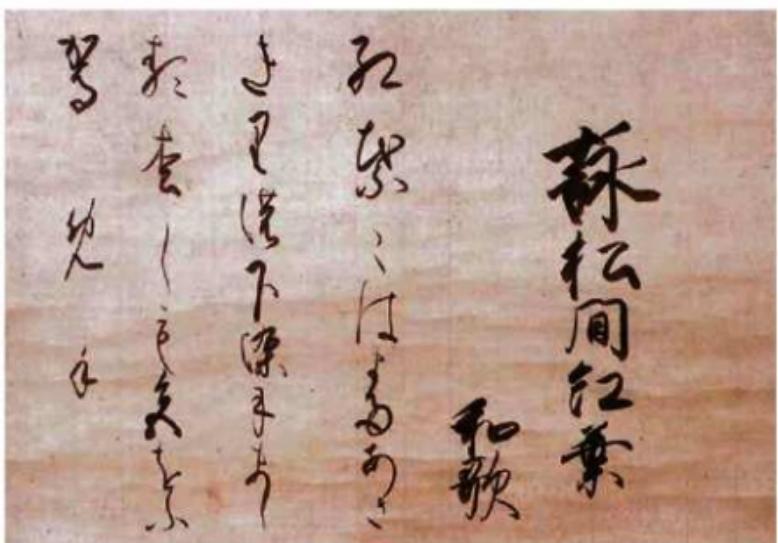
絹本著色九字名号 「南無不可思議光如來」とある。画長1m32cm、画幅36.5cm 室町時代



絹本著色十字名号 本尊の左右に掛けられる。「歸命盡十方無碍光如來」とある。画長1m31cm、画幅36.5cm 室町時代



後柏原天皇宸翰詠詩歌 「朝陽不到 溪陰露 留得横橋 一板霜」「草のうへハ 猶冬かれの
色みえて 道のみしろき のへの朝霜」とある。縦31.5 cm、横52.1cm 室町時代



靈元天皇宸翰御懐紙 「詠松間紅葉和歌 紅葉ニハ またあさきりの 下染て ましる松しも
色をふかめて」とある。縦44.3 cm、横61.8 cm 江戸時代



奈良三彩小壺 高さ5.3cm 腹部径8cm 奈良時代

上泉町にある桧峯遺跡の竪穴住居から出土した。奈良三彩は中国の唐三彩の技術をまねて日本で焼かれた多彩釉の陶器である。素地の白地に無色透明の鉛釉をかけて緑釉と黄褐釉を塗り分けて二度焼したもので白・緑・茶の三彩を表出している。奈良三彩は官衙や寺院などから出土することがあるが、この地域に普遍的な集落からの出土は希である。竪穴住居から出土した他の遺物を含めて重要文化財としての一括指定になっている。

秋元氏と 光巌寺

関ヶ原の戦いで徳川家康に従った秋元氏は慶長6年(1601)に秋元長朝が一万石の総社を拝領した。その直後に、長朝は利根川からの取水を目的とした天狗岩用水を開削し、領内の水田開発と用水の安定供給を実現した。その事績は安永5年(1776)に力田遺愛碑として光巌寺の境内に建立されている。また、総社城の築城と城下町の形成にも尽力した。二代泰朝のときに甲斐国谷村に移封され、その後は川越・山形・館林と転封する。幕府の最高役職は七代の涼朝の老中で、力田遺愛碑の建立は八代の山形藩主永朝のときである。

光巌寺は秋元長朝によって慶長12年(1607)に創建された寺で、隣接する宝塔山古墳の墳丘上に歴代藩主の墓地がある。近くの元景寺も長朝の創建で、ここは長朝の父景朝の墓所がある。光巌寺の切妻破風造りの薬医門は近世初期の建築で、寺には室町時代の輪口瓜形の芦雁蓋と江戸時代の仏具三具足や蒔絵で石山寺が描かれた常慧院時代物の机などがある。



秋元氏歴代墓地 総社城の築城を行った長朝から、礼朝までの墓がある。江戸～明治時代



光嚴寺薬医門 本柱が門の中心線から前方にずれており、薬医門の特徴があらわれている。江戸時代



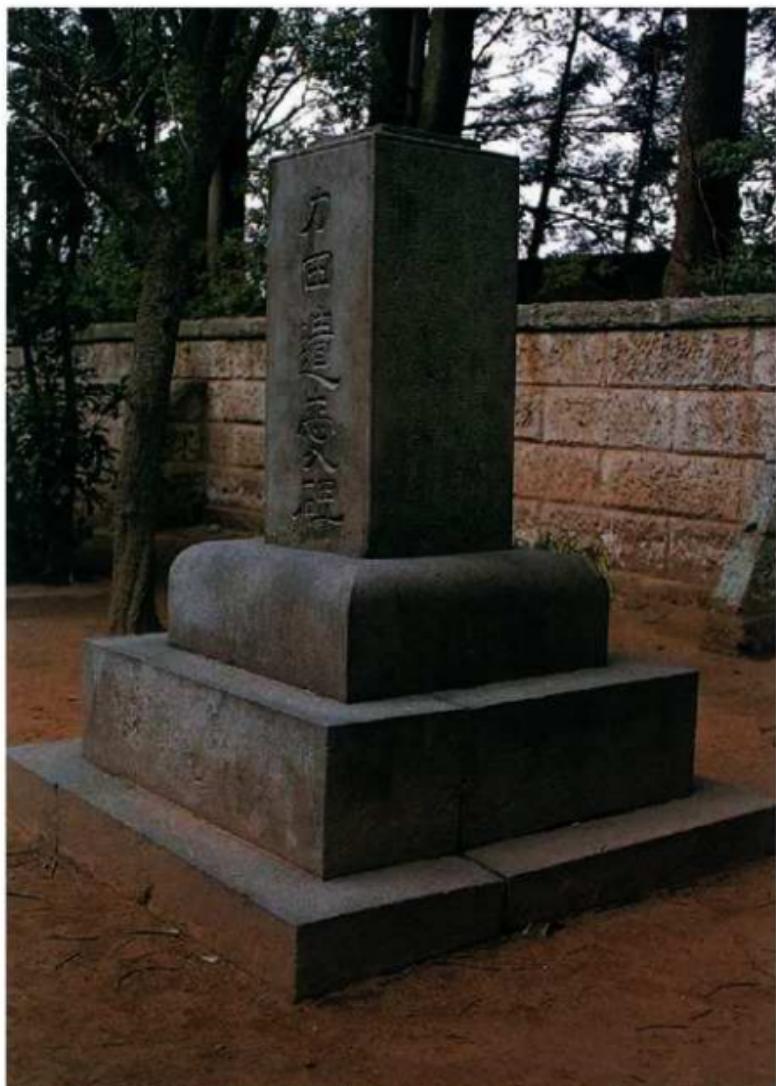
輪口瓜形釜 茶の湯釜の産地である芦屋で作られたと伝えられる。室町時代



石山寺蒔絵机 天板に近江八景のうちの石山周辺の景観が描かれている。江戸時代



三具足 秋元家の家紋である五葉木瓜紋などが文様として鋳出されている。江戸時代



力田遺愛碑 総社藩主秋元長朝による天狗岩用水の開削で恩恵を受けた農民が、長朝の事績を記念するために建てた。高さ1.68cm 江戸時代



秋元氏墓地 秋元長朝により創建された元景寺には、秋元景朝のほかに正室、側室の墓がある。
江戸時代

匠の技



市内には古刀から新々刀までの名刀が各所に保管されている。古刀では館林藩主秋元候所持の伝えを有する長光銘の太刀があり、清光銘の刀とともに備前長船の流れをくむ鎌倉・室町時代の刀工の作品である。また、景重銘の太刀は上州沼田に住した室町時代の刀工の作品である。市内には英義銘の刀・短刀・薙刀などが多く残されているが、これは前橋藩主松平氏お抱えの刀工藤枝英義の作品がもたらされて伝えられたためであろう。



脇差 銘 喜翁藤直胤 剣
に龍が巻きついた俱利伽
羅、護摩著、不動明王を表す
梵字が施されている。直胤
は水心子正秀の弟子にあた
る。江戸時代



短刀 銘 於東都藤枝英義
造 川越藩主(前橋藩主)松
平大和守直克侯の所持品と
伝えられている。江戸時代

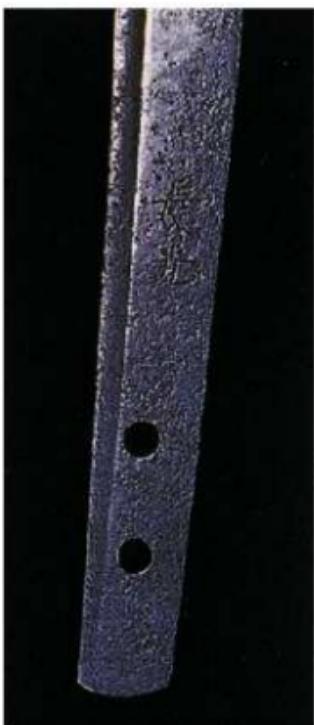




刀 銘 備前国住長船五郎左衛門尉清光作 日本刀の産地として知られている備前の代表的な刀工の作である。室町時代



なぎなた 銘 於東武英義作之 那和郡川井村(現在の玉村町五料)に生まれ、川越藩(前橋藩)の刀工となつた英義の作品である。江戸時代



太刀 銘 長光 筑前黒田侯に伝来の上、館林藩主秋元侯が所持したと伝えられている。鎌倉時代



太刀 銘 上州住景重作 関東管領上杉家のために作刀されたものと考えられ、米沢藩主上杉家に蔵蔵されてきたもの。景重は上杉氏お抱えの刀工で、沼田に住んだと伝えられる。室町時代



書き残された 文と絵

美

江戸時代には様々な用途の地図が描かれた。元禄上野絵図は、元禄9年(1696)に江戸幕府の命によって前橋藩が作った上野国の全体図。

文政四年前橋町絵図は、街路、溝川、寺社、家並みなどが彩色されて見やすい地図である。家並みの敷地には住人名や敷地面積が書き込まれており、寺社の境内地などには家屋や門構え、そして樹木までもが詳細に描かれている。文政四年天川原村分限絵図は、田畠の色分けされた地目に等級と面積が記載されており、城下の町並みと郊外の農村構造が克明に理解できるものである。どちらも前橋藩酒井家時代に作成された行政記録である。享保十五年天川町絵図は前者より約百年前に作成されたもので、天川村名主から前橋藩の町奉行に提出されたものである。いずれも前橋の町の成立経緯を知ることのできる貴重なものである。

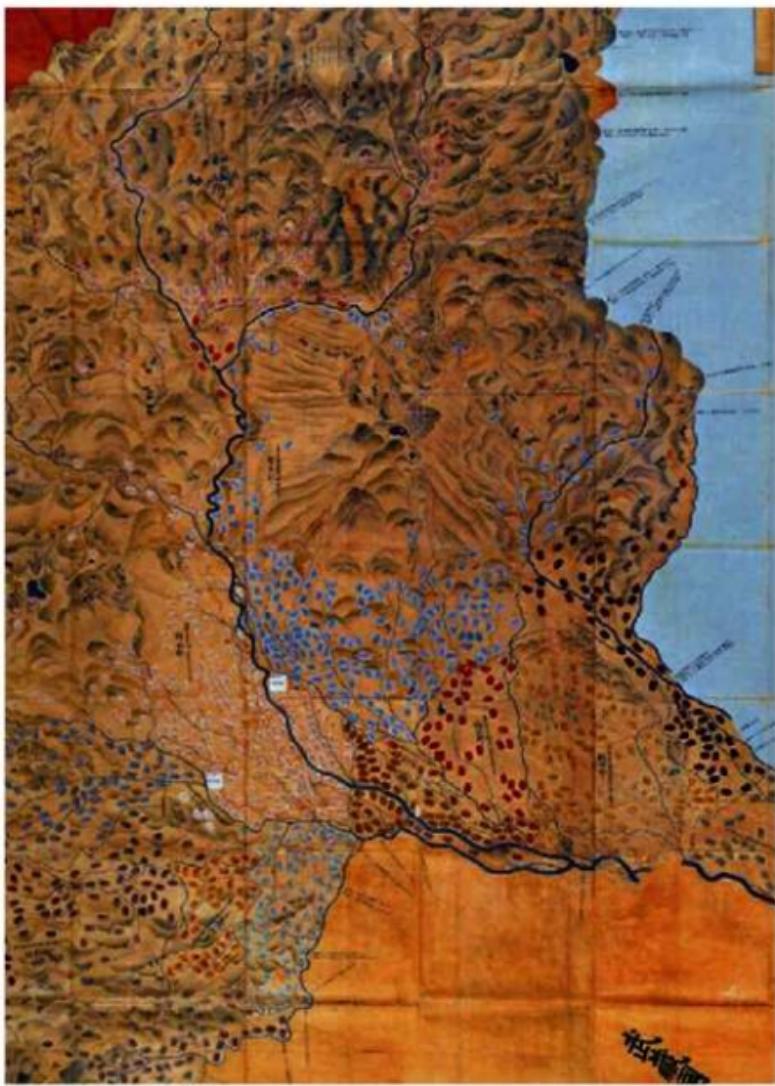
郷蔵は江戸時代に年貢米の保管を目的にして各村に造られたものであるが、ここには村有の文書なども保管されることがあった。上泉の郷蔵は改修整備されて現地で見ることができる。

また、明治以降の県庁文書などは県立文書館に収蔵されていて閲覧ができるものもある。

書き残された文と絵



元禄上野国絵図 江戸幕府に命じられた前橋藩5代藩主酒井雅楽頭忠挙が元禄15年(1702)に献上したもの。縦520cm、横555cm 群馬県立文書館



元禄上野国絵図(一部拡大)



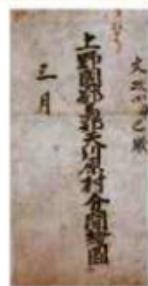
文政四年前橋町絵図 縦 2m43cm、横 4m95cm 群馬県立文書館



文政四年前橋町絵図(一部拡大)



文政四年天川原村分間絵図 縦1m15cm、横2m80cm 個人蔵 群馬県立文書館保管



文政四年天川原村分間絵図(一部拡大)





享保十五年天川町絵図 天川村名主から町奉行あてに提出されたもの。現在の朝日町三・四丁目から文京町四丁目あたりまで描かれている。縦1m38cm、横63cm 天川史跡保存会 群馬県立文書館保管



上泉郷蔵 間口 8間、奥行 3間、瓦葺き
荒壁塗りの土蔵 江戸時代



保存されている上泉古文書



群馬県行政文書 明治から昭和前期にかけての行政文書17,858点 群馬県立文書館

祈りの舞い 感謝の舞い

神楽や獅子舞はもともとは神へ招魂や鎮魂を目的とした神事芸能であったが、民間への流布をへて招福除災や農事にともなう五穀豊穣・雨乞いなどの目的も加わって変化を遂げてきた。

一般的には伊勢神宮や出雲大社の布教活動によって全国に里神楽などが定着した。多くの場合は近隣の神社からの伝授によるもので、野良犬の獅子舞は慶長年間(1596~1615)に吉岡村八幡宮から伝わったとの伝承があり、春日神社の太々神楽は明治16年(1883)に始まった渋川市北橘町下南室の赤城神社をへて伝わったという。片貝神社の太々神楽も明治のはじめに總社神社から伝わったという。下長磯あやつり式三番は浄瑠璃系の人形を使用したもので、人形の頭には安永九年(1780)の墨書銘が記されている。

これらの神事芸能が盛んになったのは、いずれも江戸時代中期の文化・文政期(1804~1830)ころと思われ、櫻荷藤節の盆踊り唄や歌舞伎などの芸能もほぼこの時期に始まったものだろう。市内各地には衣装や面や人形頭が残されていることから、その当時にこれらの芸能が盛んに演じられたことが思われる。横室の農村歌舞伎は宝曆2年(1752)から始められたという。前橋鶴木遣振り梯子乗りは、その緒言は不明だが今でも市内の慶事に際して披露されている。

祈りの舞い 感謝の舞い



植野稻荷神社太々神楽 每年4月に奉納される。大和流神楽を移入して加えたものといわれる。



御靈神社太々神楽 每年4・10月の例祭に奉納される。



大胡神社太々神楽 毎年5月の春の例大祭に奉納される。



月田近戸神社の獅子舞 「月田のささら」と呼ばれ、毎年8月の例大祭に奉納される。



立石諏訪神社の獅子舞 毎年10月に奉納される。ムラ境で辻舞が行われる。



江田鏡神社の獅子舞 10月に奉納される。獅子舞をほめる「ほめ言葉」と、それに答礼する「返し言葉」の掛け合いがある。



野良犬獅子舞。毎年10月の秋祭りに清野町八幡宮で奉納される。吉岡町の八幡宮から伝わったといわれている。



大前田諏訪神社の獅子舞。毎年10月に奉納される。

祈りの舞い 感謝の舞い



春日神社太々神楽 每年5月2日の八十八夜に上佐島町春日神社で奉納される。



上泉の獅子舞 每年10月に上泉町諏訪神社で奉納される。



泉沢の獅子舞 每年4月1日の早朝に泉沢町内で奉納される。



下長磯あやつり式三番の人形 每年4月15日に下長磯町稻荷神社で奉納される。



泉沢の人形 明治20年頃に四国の阿波の国から上坂角太郎が来ことにより始まった。明治時代



込皆戸三番叟人形 県内では最古の人形頭といわれている。現在は新たな人形を使って、復活上演されている。



横室の歌舞伎衣装 江戸歌舞伎で使用された数多くの豪しゃな衣装が残され、歌舞伎は今も上演されている。

祈りの舞い 感謝の舞い



稻荷藤節 泉沢町の人々によって伝承されている。



前橋鳴木遣振り様子乗り 市内の出初め式などで披露される。



祈りの造形①

寺院にある 石造物・仏具

平安時代に最澄と空海によってもたらされた平安仏教はそれまでの五重塔に替わって多宝塔（宝塔）の建立をうながした。多宝塔とは法華経に基づいて釈迦と多宝の二如来を安置する施設であったが、中世になると墓石や供養塔に変化しながら石造の宝塔が全国的に造られていく。宝篋印塔はもともとは納経を目的にしたが、これも墓石や供養碑に変化した。

五重塔は元々は塔婆であり、中世には石製の層塔が造られる。石製の塔婆には笠塔婆や秩父石（緑泥片岩）を加工した青色の板碑などがある。

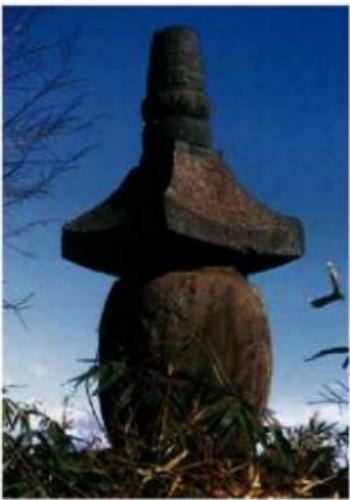
石幢は地蔵信仰によるもので輪廻車を回すことによって六道に輪廻転生するものを救う。

ここでは、中世から近世にかけて寺院や墓地に建立された祈りの造形を見てみよう。鰐口や懸仏も寺院内部で使用する大切な祈りの造形である。

祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具



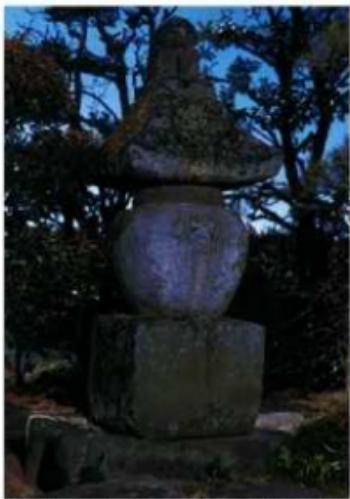
廃覚動寺の宝塔 永和4年(1378)の銘がある。多宝塔と宝篋印塔の中間的な異形宝塔
高さ2m19cm 南北朝時代



山王の宝塔 高さ2m72cm 南北朝～室町時代



富田の宝塔 高さ約3m 室町時代



大福寺の宝塔 応永25年の銘がある。高さ1m46cm 室町時代



観昌寺の宝塔 高さ 1m28cm 南北朝時代



江木の宝塔 高さ 1m98cm 室町時代



宿の平の宝塔 赤城温泉郷忠治館前にあり元亨4年(1324)の銘がある。屋蓋と塔身のみで高さ 1m30cm 鎌倉時代



鼻毛石の宝塔 基台・相輪を欠落

祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具



横室の宝筐印塔 元は十二山中腹から出土したもの。正長元年(1428)の銘がある。高さ 1m18cm 室町時代



北爪将監の供養塔 北爪出羽守長秀を祖先とする有力武士。享保11年(1726)に追善供養で建てられた。江戸時代



三夜沢赤城神社の宝塔 高さ 1m26cm



三ヶ尻の宝塔 高さ 2m 鎌倉時代



珊瑚寺の板碑と多宝塔 板碑は正和4年(1315)・同22年(1315)・建武元年(1334)・同2年(1335)の銘がある。南北朝時代



東覚寺の層塔 七層の塔で戦国時代に廢寺になった高井町の東覚寺にあったもの。高さ4m17cm 室町時代



横沢の石塔婆 暦応2年(1339)の銘がある。高さ1m35cm 南北朝時代



笠薬師の塔婆 県内最古の様式をもつ。高さ1m12cm 平安～鎌倉時代

祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具



鳥羽の大日如来及び笠塔婆 大日如来坐像は宝冠を付け、智拳印を結ぶ姿が表現されている。笠塔婆は笠部分が欠損し、塔身部のみが残る。鎌倉時代



小島田の供養碑 阿弥陀如来を表現した県内最古のもの。高さ 1m29cm 仁治元年(1240)の銘がある。鎌倉時代



普藏寺の供養塔 康正元年(1455)の銘がある。現在は最善寺にある。高さ 1m34cm 室町時代



宝禪寺の異型板碑 安山岩製で角塔婆状である。北朝年号の康永第四曆(1345)の銘がある。南北朝時代



乗明院の阿弥陀三尊画像板碑
弘安3年(1280)の銘がある。高さ1m67cm 鎌倉時代



近戸神社の六地蔵石殿 历応5年(1342)の銘がある県内最大級の六地蔵。高さ1m60cm 室町時代



光巣寺の石燈 阿弥陀三尊や六地蔵の彫刻がある。高さ1m60cm 室町時代

祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具



亀里町阿内宿の石燈 明応7年(1498)の銘がある。高さ2m35cm 室町時代



赤城寺の石燈 文和元年(1352)の銘がある。高さ52cm 鎌倉時代



金剛寺の石燈 阿弥陀三尊と六地蔵の彫刻がある。永正3年(1506)の銘がある。



堀越共同墓地の石燈



鹿沼家墓地の石幢



龍性寺の石幢

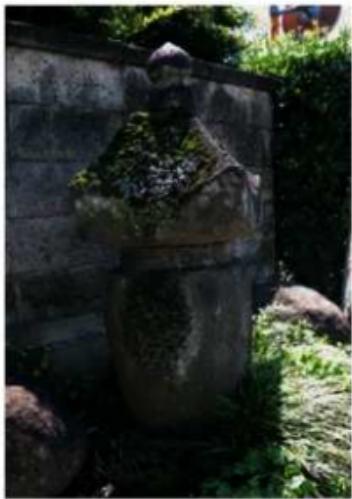


赤城寺の種子十三仏塔



金剛寺の宝篋印塔

祈りの造形① 寺院にある石造物・仏具



時沢の多宝塔 南北朝時代



大徳寺の多宝塔 正徳2年(1712)に奉納された金銅製の多宝塔。高さ1m40cm 江戸時代



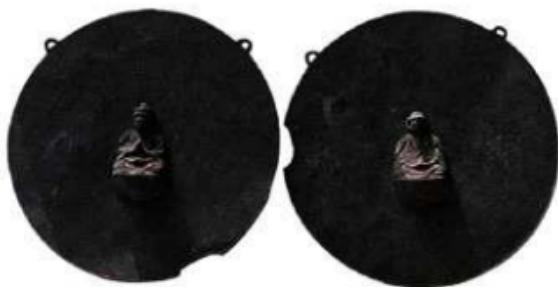
東福寺の鉢口 元は赤城山地藏岳山頂の地蔵堂にあった。応永13年(1406)の銘がある。室町時代



金剛寺の懸仏



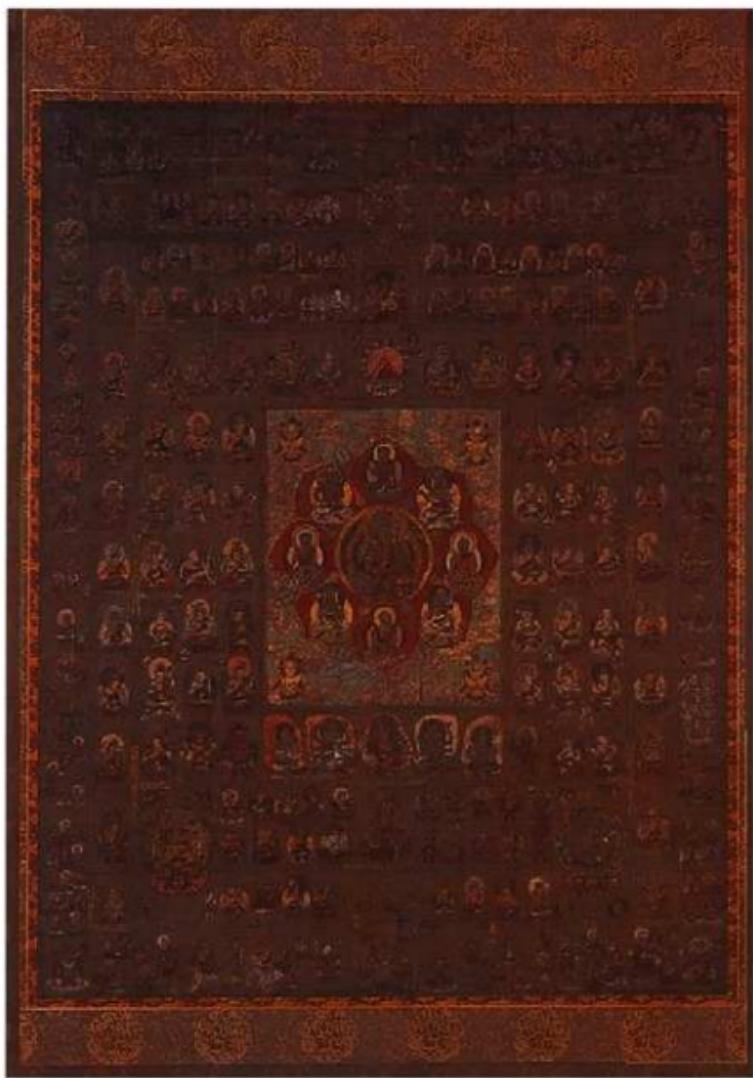
徳藏寺の懸仏 弥勒菩薩・薬師如来・観音菩薩の三面がある。
室町時代



柏倉諏訪神社の馬頭觀世音懸仏



麻本著色両界曼荼羅 仏法の理を表現した胎藏界曼荼羅(右)と智を表現した金剛界曼荼羅(左)からなる。室町時代 徳藏寺





祈りの造形② 路傍の碑

ふと気づくと路傍にはさまざまな石造物が立っている。行き交う人々を守る碑、人々の結束を誓った講中の碑、仏の加護を祈念した祈りの碑。道しるべも祈りを兼ねたものが多い。人々はなんと多くの碑を造り続けてきたのだろう。

指定された道しるべは少ないが市内の辻には数多く残されている。それは当時の旅人の多さを物語っているのだろう。天川大島町の道しるべは「右 江戸みち 左 あ徒満道」とある。この道は中山道の脇往還で沼田藩の大名行列もこの道を江戸へ上ったという。左のあずま道は地域の人たちの案内であろう。大胡に残る二つの道しるべはともに伊勢崎・大間々・桐生・米野などの近距離地点の案内になっているが、日光例幣使街道の脇往還としての「日光」への案内を兼ねている。そこからは、東照宮参拝の遊山の旅も見えてくる。路傍に残された江戸時代の道しるべからは、遠く地域を越えての旅人の多さを知るとともに、地元民の往来も活発であったことを想像することができる。

近世の道祖神は悪霊や疫病除けのために村の入り口などに建てられたものが多い。様々な石仏群は村人たちが安穏を祈った信仰の証。天川大島町の刑場に建てられた供養碑は町人68名の世話人名が刻まれており、町の秩序を守りつつ処刑人の御靈の鎮めを祈ったものだろう。いずれも永遠なる石に託した先人たちの祈りの記念物である。



前橋藩刑場跡の供養塔ならびに天川大島町の道しるべ 供養塔は天保12年(1841)に町人たちの世話をにより刑死者の靈を弔うために建立された(後方)。道しるべは正面に「南無阿弥陀仏」、その横に宝曆5年(1755)の年号がある(手前)。現在は、道路南側に移動している。

祈りの造形② 路傍の碑



大胡宿の道しるべ 「東 文化六己巳六月、世話人奥泉文平 江原忠兵衛」「西 前橋 米野」「南 五料 伊勢崎」「北 日光 大間々」とある。



河原浜の道しるべ 建立時期は不明。「右 桐生 大間々」「左 日光」とある。



福荷新田の薬師 像高70cm 南北朝時代



金剛寺の双体道祖神



柏倉の双体道祖神



鼻毛石竹内の双体道祖神



円満寺の石造阿弥陀三尊坐像 像高65～93.5cm 鎌倉時代

祈りの造形② 路傍の碑



宝林寺の石造觀音菩薩坐像 応永20年(1413)
の銘がある。像高30cm 室町時代



大前田世良田薬師の石造阿弥陀如来坐像



東昌寺の石造薬師如來坐像



亀泉の石造藥師三尊立像



元景寺の石造地蔵菩薩坐像 応永28年(1421)の銘がある。像高38.5cm 室町時代



福里の石造馬頭観世音立像

前橋市指定
史跡 下村善太郎の墓

ふるさとの歴史群像

ふるさと前橋の歴史に登場する人物は多岐にわたっている。戦国時代の東国武士を代表する大胡氏はその名を「大胡」の地名として残し、この地には大胡太郎の墓と伝えられる墓石も残されている。江戸時代のはじめ大胡氏の築いた大胡城に在住した牧野氏の墓も大胡町の養林寺にある。総社町の光巖寺には総社藩主をつとめた秋元氏累代の墓があり、紅雲町の龍海院には前橋藩主酒井氏歴代の墓所がある。また、三河町の正幸寺には酒井氏の家老職にあった高須家の墓地がある。同じく家臣の本城氏は紅雲町の長昌寺に葬られている。これらの墓群は中世から近世にかけての政治構造を考えるための思考の原点になるだろう。

幕末から明治にかけての人物群像もその足跡を墓所に残している。石田玄圭は医者であるとともに閑孝和の流れを汲む和算家で明和7年(1770)に総社町に居を構えて活動した。船津伝次平は明治時代にあって群馬県内のみなぎる全国的な視野で近代農法の基礎を造った農聖と称えられた人である。それに先立つ人物として上青梨子町での養蚕の発展に尽力した松下政右衛門や助産婦として活躍した津久井いその名は忘れられないものだろう。

明治以降にあっては「うさん」や「海」「汽車ぼっぼ」などの作曲を通して明治の子どもたちへの情操教育を進めた井上武士がいる。詩集「死刑宣告」を出版した萩原恭次郎や詩集「月に吠える」で一躍脚光を浴びた萩原朔太郎。そして、詩人としての東宮七男や俳人としての須藤泰一郎や松野自得の活動も地域の人々の心の糧として貴重なものであった。初代佐渡ヶ嶽親方の佐渡ヶ嶽沢右エ門は市内出身の力士として異色の存在である。

現在の前橋市の礎を築いた下村善太郎は生糸商人であったが、市制施行とともに初代の市長になった人である。



伝大胡太郎の墓 12世紀後半の有力武士団の一つである大胡氏の大胡太郎の墓と伝えられている。



牧野家墓地 大胡城主であった牧野氏の菩提寺である養林寺にある。初代康成、その正室と成定の正室の墓がある。江戸時代



本城氏の墓 本城豊前守満茂は出羽国藩主最上氏の最高家臣であったが、最上氏の家臣団の内紛により、前橋藩主酒井忠世に抱えられ最上衆と言われた。江戸時代



高須家墓地 高須家は前橋藩主酒井家の家老の家柄である。墓地には37基の石殿型の石塔が並んでいる。江戸時代



石田玄圭の墓 化政文化華やかな頃に医者として活躍するとともに天文・暦学・数学にもたけて「暦学小成」などを著し、文化14年(1817)に没した。江戸時代



船津伝次平の墓 安政4年(1857)に父の後を
継ぎ寺子屋師匠をしながら「太陽曆耕作一覧」
などの著作を進める。明治10年(1877)に駒場農
学校の教師になり、その後は農商務省の農事巡回
教師として全国の農事改良を指導した。明
治時代



下村善太郎の墓 生糸貿易で成功し、県庁誘致
その他教育・産業・交通・防災等公共事業に
私財を投じ、都市基盤づくりに奔走しよく公益
に尽くし、明治25年(1892)に前橋市初代市長と
なった。明治時代





絹の都 前橋の記憶

明治時代の前橋は近代化の波の中で大きな変貌を遂げることになる。前橋はまさに絹産業の中心地である蚕都としての活況を呈した。市街地にはそこかしこに製糸場や煉瓦造りの蔵庫が建てられた。明治8年(1875)には勝山宗三郎によって改良座縁製糸会社勝山社が操業した。今はその煉瓦蔵のみが残っている。旧蚕糸試験場事務棟は明治45年に当時の農商務省の国立原蚕種製造所前橋支所本館として建設されたものである。利根川を望む臨江閣は明治以来群馬県や前橋の迎賓館として多くの人々を迎えてきた。両毛線は高崎と小山から東京へと続く産業の動脈として明治22年(1889)に全通し、また、前橋と桐生を結ぶ上毛電気鉄道は昭和3年(1928)に開通した。

この頃には前橋市民の憧憬として心に焼き付いている県庁や群馬会館そして前橋市浄水場配水塔などが相次いで建設された。

キリスト教の布教活動も盛んで、明治21年(1888)にキリスト教系の前橋英和女学校(現共愛学園)が設立された直後に、キリスト教伝道団体のアメリカンボードによる宣教師館が建設されている。前橋カトリック教会は明治38年(1905)に天主公教会として設立された群馬県における最初の教会を前身としており、現在の聖堂は昭和7年(1932)に建てられた。

これらの建造物は前橋大空襲をくぐり抜けつつ、前橋の記憶を語り続けてきた前橋市民の貴重な遺産である。前橋市の歴史の語り部は、その後もあるなばあくや広瀬川美術館の思い出を重ねながら平成の大合併をへて人口34万人の中核都市として新しい歩みを進めている。



臨江閣本館 県令権取素彦の提言により、地元有志や企業の協力と募金により、明治17年(1878)に迎賓館として完成した。明治天皇の御在所として使用され、皇太子当時の大正天皇も滞在された。



臨江閣本館 1階控の間から一の間を見る



臨江閣茶室 県令権取素彦や県庁職員の募金により、本館より2ヶ月遅れて完成した。平成20年の都市緑化フェア開催に際して、市民の愛称として権取素彦の号である「咲堂庵」と命名された。



臨江閣茶室の書院



臨江閣別館 明治43年(1910)に前橋市で開催された一府十四県連合共進会の貴賓館として建てられ、閉会後は大公会堂として利用された。



別館2階 番150畳の大広間。向かって左側に吉田初三郎の前橋市鳥瞰図がある。



群馬県庁本庁舎 早稲田大学の大隈講堂を設計した佐藤功一による設計であり、昭和3年(1928)に竣工した。現在も昭和庁舎として使用されている。



群馬県庁本庁舎 1階の階段ホール



群馬会館 昭和天皇即位の大礼を記念して、行事会議をもてる施設として昭和4年(1929)に建設された。設計は群馬県庁本庁舎と同じ佐藤功一である。



上毛電気鉄道大胡駅電車庫 昭和3年(1929)に造られた。木造で小屋組みはキングポストトラスである。



上毛電気鉄道大胡駅駅舎 昭和3年(1929)の開業時に造られた。木造平屋建スレート葺。西桐生駅舎も登録文化財となっている。



上毛電気鉄道大胡駅変電所 昭和3年(1929)に造られた。鉄筋コンクリート平屋建て。この変電所に送電する鉄塔も、昭和3年当初のものが4基残されている。



上毛電気鉄道荒砥川橋梁 当初の構造は2連の鋼板桁と橋脚1基であったが、昭和22年(1947)のカスリン台風により一部を流失したため、3基作り4連の橋梁となった。



上毛電気鉄道柏川橋梁 カスリン台風により橋台と橋脚が崩れ、橋脚は当初の六角形から円形になった。構造は鋼版桁4連橋脚3基

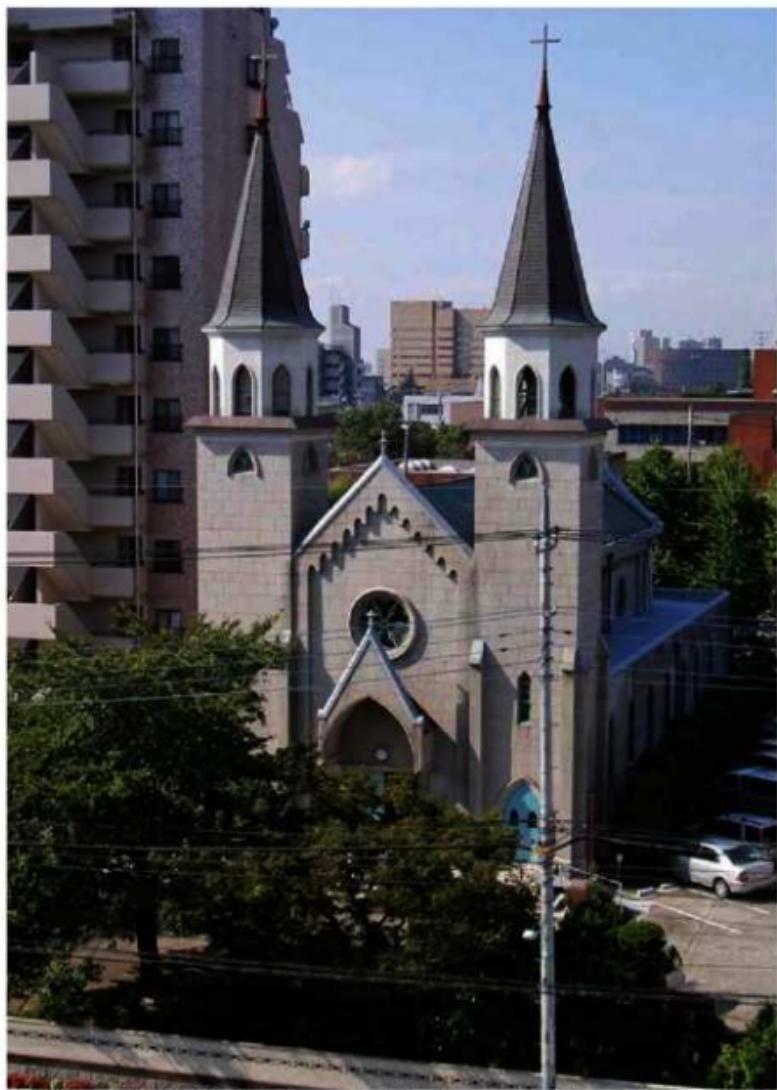


旧アメリカンボード宣教師館 キリスト教の伝道団体であるアメリカン・ボード(米国伝道会社)の宣教師の住宅として明治25年(1892)に建築された。





旧安田銀行担保倉庫(協同組合前橋商品市場倉庫) 貸付金の担保物件として繭や生糸を保管した。大正2年(1913)建築。桁行30間、梁間6間の2階建。煉瓦はイギリス積みである。



前橋カトリック教会聖堂 昭和7年(1932)建築。鉄筋コンクリート造りで一部3階建。聖堂正面左右に下部四角、上部八角の尖塔を立ちあげた双塔形式である。



前橋の養蚕・製糸用具 前橋市域で明治以降昭和50年代ころまで使われた養蚕・製糸業に関する用具類等であり、前橋市蚕糸記念館で展示されている。



旧勝山社煉瓦蔵 明治35年(1902)に製糸・織物業で栄えた勝山社が所有する倉庫として建設された。煉瓦はイギリス積みで、小屋組はキングポストトラスである。



るなばあく木馬館 昭和29年(1954)の前橋市中央児童遊園開園時に設置され、現在も稼動している。



るなばあく旧ラジオ塔 昭和8年(1933)に前橋放送局の開局を記念して、前橋放送局、東京電燈前橋支店により前橋公園内に設置され、その後、現在地に移された。



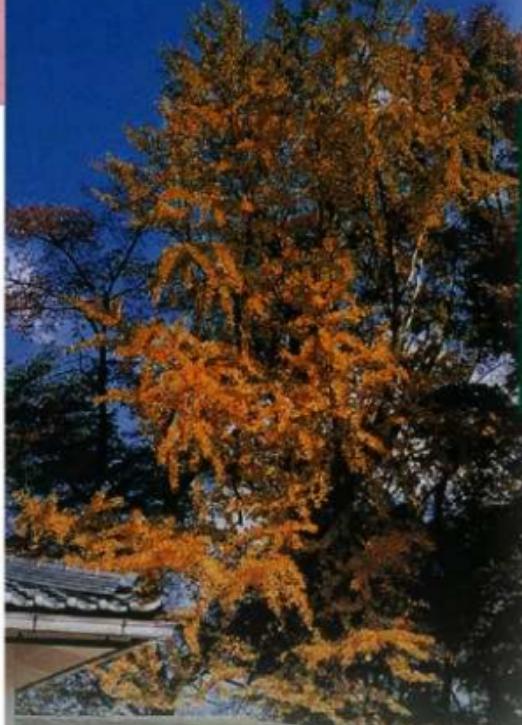
浄水構場事務所・前橋市浄水場配水塔ともに昭和4年(1929)に建設された。浄水構場事務所の設計は野田俊彦、配水塔は金井彦三郎。浄水構場事務所は前橋市水道資料館として公開されている。



旧蚕糸試験場事務棟 明治45年(1912)に落成した。現在は敷島公園ばら園内に移築され、前橋市蚕糸記念館として公開されている。



広瀬川美術館(旧近藤嘉男アトリエ及び絵画教室ラ・ボンヌ) 昭和23年(1948)建築。画家のアトリエ兼住宅をそのまま保存して美術館とした建物



世相を見つめ続けた 巨樹・巨木

草木がつくり上げる自然の光景は人々の心を癒し、人々に活力もあたえ続けてきた。そのなかでも巨樹・巨木は地域に根ざした生活の象徴として人間生活のなかに組み込まれていた。

前橋市内には数多くの巨樹・巨木があるが、それらの多くは人々の手によって移植された人工物でもある。寺社にあるスギやケヤキの叢林は莊厳な聖地を醸しだし、街道沿いに植えられたマツの並木道は旅人の疲れを癒すとともに、地域住民にはその先にある世界の広がりを想像させる思考の場でもあった。

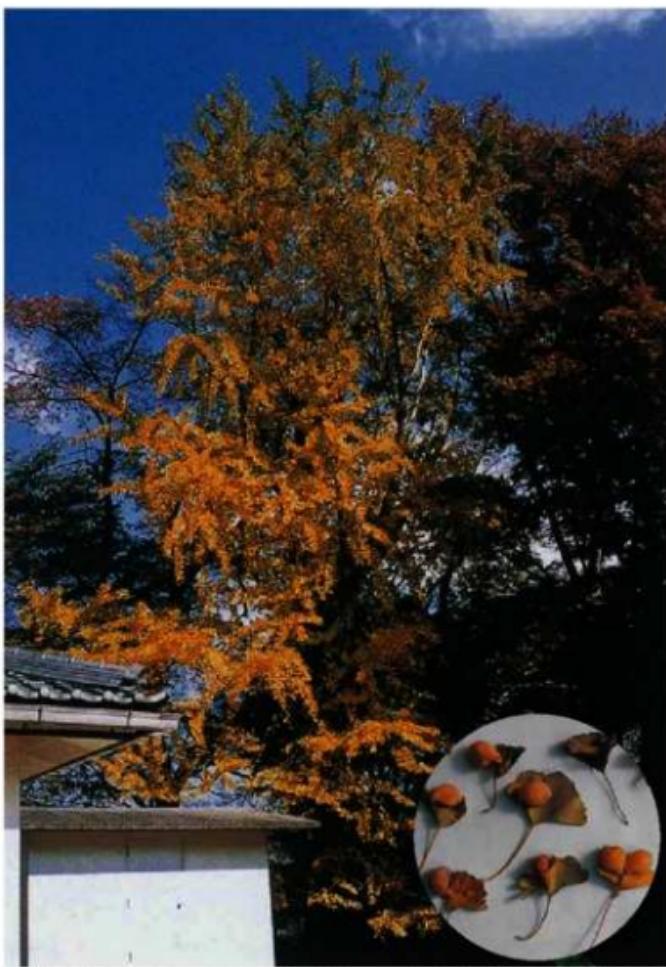
前橋高校の庭にあるラクウショウは県人の渡米記念でもたらされたものといわれている。さまざまな記念樹もその地域の誇りを秘めたメモリアルであり、それは未来に向かった心の拠り所にもなった。

このようななかで、平成23年に市の天然記念物に指定された大室公園のコナラは、赤城山麓の原風景を想像できる貴重な自然植生である。

私たちは、そこここにたたずむ巨樹・巨木に力強い生命力を見いだして明日への活力を育んできたのです。



時沢の夫婦マツ 赤城山頂にある大洞赤城神社の参道の松並木。樹齢300年以上



西大室町公民館のオハツキイチョウ 樹高25m 銀杏がイチョウの葉の縁辺に付く奇態で偶然に出現する遺伝子の「先祖返り」現象である。



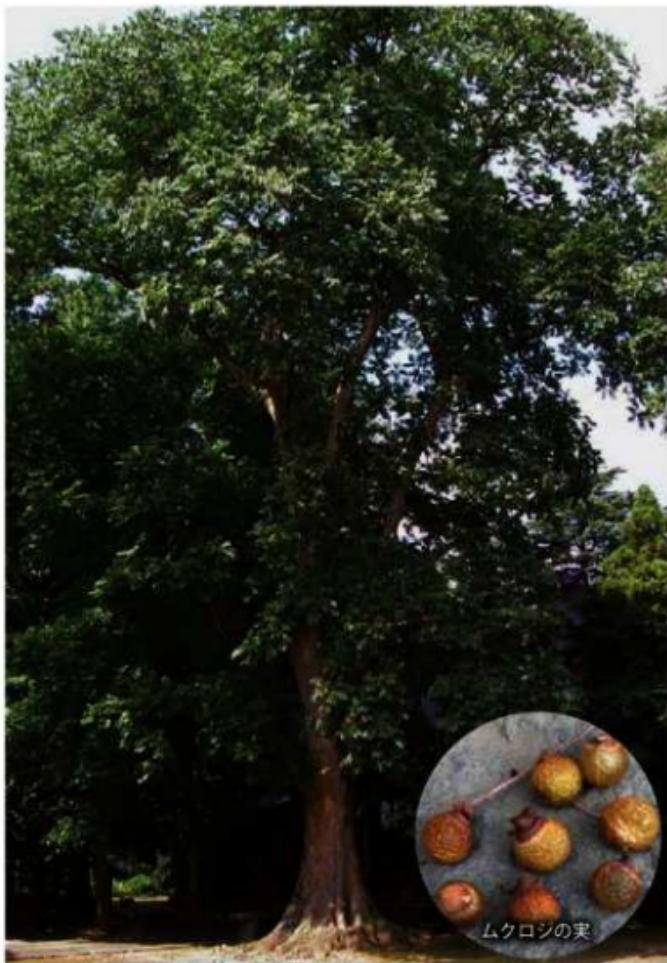
前橋高等学校のラクウショウ 樹高20m アメリカ原産で明治26年(1893)に水沼製糸場を創設した星野長太郎が渡米した際に持ち帰った3本のうちの1本と言われる。もとは旧前橋中学校(紅雲町)にあったものを昭和57年(1982)に現在地に移植した。



春日神社のケヤキ 目通り周5.32m、樹高32m、樹齢は300～400年と推定される。



井出上神社のシイ 目通り周3.6m、樹高16m、樹齢は200～300年と推定される。



大胡神社のムクロジ 樹高10m、実の中にある黒い種子は羽根つきの球になり、果皮は石鹼の代用にもされた。

ムクロジの実



元総社町石井家のクスノキ 目通り周6.4m、樹高27.5m



金剛寺のナツメ 目通り周1.45m、樹高11.5m



横室の大力ヤ 目通り周8.43m、樹高20.5m。日本最大のカヤであり、樹齢は推定約1,000年とされている。



大室公園のコナラ 目通り周6.1m、樹高21.5m

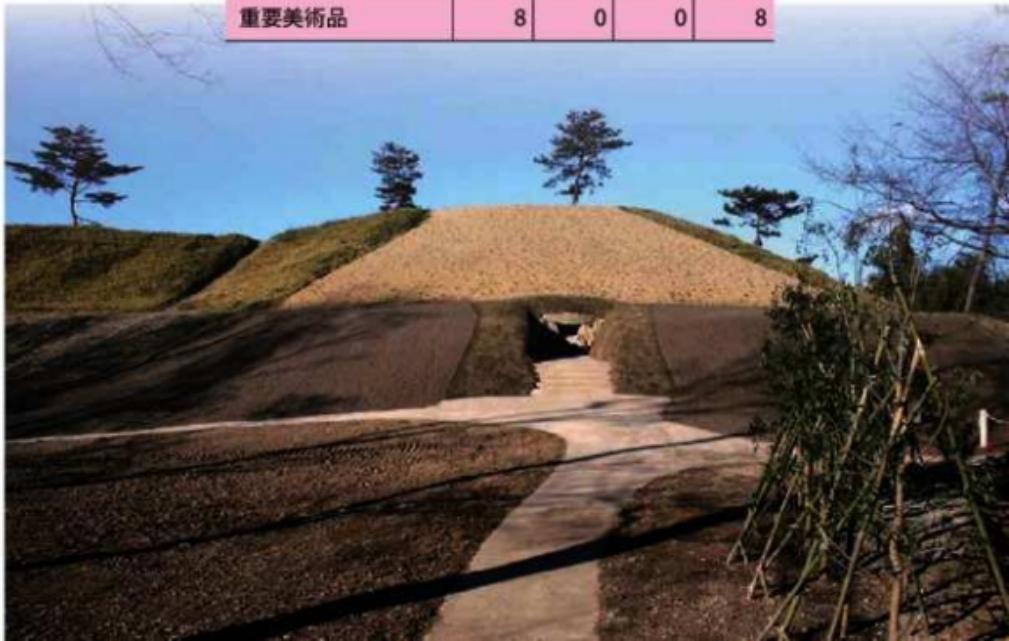


土偶 高さ30.5cm 縄文時代後期

昭和20年ごろに当時の国鉄線郷原駅前（現東吾妻町内）の国道工事に際して発見されたもので、現在は前橋市内の個人蔵になっており、東京国立博物館に展示されている。土偶は縄文時代の呪術用具とされ、妊娠した女性の造形が多いことから安産祈願にともなう信仰遺物といわれている。頭がハート形をしていることから、特に“ハート形土偶”と称されており、日本の原始美術を代表する優品である。

指定等区分別文化財件数

指定名称	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	5	38	139	182
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	25	25
無形民俗文化財	0	2	19	21
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	18	56	241	315
登録有形文化財	21	0	0	21
登録有形民俗文化財	1	0	0	1
重要美術品	8	0	0	8



指定文化財等一覧

■国指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	鐵造阿彌陀如來坐像	昭3.8.17	端気町337 善勝寺
2	上野國山王庵寺塔心柱根巻石	昭28.11.24	総社町總社2408 日枝神社
3	土偶	昭40.5.29	台東区上野公園 東京国立博物館
4	阿久沢家住宅	昭45.6.17	柏倉町604
5	群馬県行政文書	平22.6.29	文京町三丁目27-26 群馬県立文書館

■国指定史跡

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	上野國分寺跡	大15.10.20	元總社町、高崎市東國分町
2	(總社)二子山古墳	昭2.4.8	總社町植野368
3	前二子古墳	昭2.4.8	西大室町2545 大室公園
4	中二子古墳	昭2.4.8	西大室町2545 大室公園
5	後二子古墳並びに小古墳	昭2.4.8	西大室町2545 大室公園
6	(天川)二子山古墳	昭2.6.14	文京町三丁目26
7	山王庵寺跡(旧山王塔跡)	昭3.2.7	總社町總社2408 日枝神社
8	宝塔山古墳	昭19.11.13	總社町總社1606
9	八幡山古墳	昭24.7.13	朝倉町四丁目9-3
10	蛇穴山古墳	昭49.12.23	總社町總社1587-2
11	女堀	昭58.10.27	富田町、荒子町、二之宮町、飯土井町、西大室町、東大室町

■国指定天然記念物

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	岩神の飛石	昭13.12.14	昭和町三丁目29-11 稲荷神社
2	横室の大力ヤ	昭8.4.13	富士見町横室1023-1

■県指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	十一面觀世音像	一般 昭26.6.19	日輪寺町412 日輪寺
2	梵鐘	一口 昭30.1.14	千代田町三丁目3-30 妙安寺
3	脇差 銘喜翁藤直胤	一口 昭34.8.5 (個人所有)	
4	上野總社神社本殿	一棟 昭38.9.4	元總社町一丁目31-45 總社神社
5	刀 銘備前国住長船五郎左衛門尉清光作	昭38.9.4	(個人所有)
6	短刀 銘於東都藤枝英義造	一口 昭38.9.4	(個人所有)
7	なぎなた 銘於東武英義作之	一口 昭38.9.4	(個人所有)
8	太刀 銘長光	一口 昭40.7.23	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
9	納曾利面	一面 昭44.5.6	二之宮町886 二宮赤城神社
10	總社神社懸仏	二面 昭49.12.23	元總社町一丁目31-45 總社神社
11	總社本上野國神名帳	一巻 昭49.12.23	元總社町一丁目31-45 總社神社
12	總社神社雪版	一面 昭51.5.7	元總社町一丁目31-45 總社神社
13	旧アメリカン・ボード宣教師館	一棟 昭53.10.13	小屋原町1120-5 共愛学園
14	旧蚕糸試験場事務棟	一棟 昭56.7.10	敷島町262 敷島公園ばら園

■県指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
15	絹本著色聖徳太子孝養像(六臣) 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
16	絹本著色聖徳太子孝養像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
17	絹本著色親鸞聖人旅姿像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
18	絹本著色親鸞・成然両上人像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
19	絹本著色親鸞聖人像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
20	絹本著色真宗七高祖像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
21	絹本著色成然上人像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
22	絹本著色成然上人像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
23	絹本著色成然上人像 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
24	絹本著色親鸞聖人縁起絵伝 四幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
25	中啓 伝狩野山楽筆扇面画 一本	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
26	絹本著色九文人合作書画 一幅	昭60. 6.25	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
27	臨江閣本館茶室二棟付棟札 二枚	昭61. 3.7	大手町三丁目15
28	太刀 銘上州住景重作 一口	昭63. 7.14	(個人所有)
29	産泰神社(本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地)	平6. 3.25	下大屋町569 産泰神社
30	横沢の石塔婆 一基	昭42.11.24	横沢町677
31	三夜沢赤城神社本殿内宮殿 一基	昭38. 9.4	三夜沢町114 赤城神社
32	三夜沢赤城神社本殿並びに中門 二棟	昭48. 4.25	三夜沢町114 赤城神社
33	三夜沢赤城神社の古文書 四十五通	昭48. 4.25	三夜沢町116
34	赤城神社惣門 一棟	昭53. 8.25	三夜沢町429-1 赤城神社
35	木造十一面觀音立像 一躯	平15. 3.25	粕川町女沢282-2 觀音堂
36	元禄上野国絵図 一鋪	平21. 3.24	文京町三丁目27-26 群馬県立文書館
37	横室の歌舞伎衣裳 十五点	昭36.10.24	富士見町横室730
38	小鳥が島出土鏡 (附宝塔及び經筒残欠) 十面	昭52. 9.20	富士見町赤城山大洞4-2 赤城神社

■県指定史跡

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	力田遺愛碑	昭25. 6.16	総社町総社1607 光巌寺
2	石田玄圭の墓	昭26. 4.24	高井町一丁目34-12
3	上泉郷藏 附上泉古文書	昭26. 6.19	上泉町1168-1
4	前橋天神山古墳	昭45.12.22	広瀬町一丁目27-7
5	荒砥富士山古墳	平9. 3.28	西大室町813-2
6	大胡城跡	昭42. 2.24	河原浜町660-1
7	堀越古墳	昭48.12.21	堀越町861-1
8	櫻石(追昭60.6.25)	昭38. 9.4	三夜沢町968
9	鏡手塚古墳	昭24. 3.28	粕川町月田213-1
10	膳城跡	昭24. 3.11	粕川町膳83-2
11	塙塚古墳	昭26.10.5	富士見町月田207
12	舟津伝次平の墓	昭26.10.5	富士見町原之郷乙539

■県指定重要無形民俗文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	下長磯あやつり式三番 附人形 三個	昭58. 2.22	下長磯町281 稲荷神社
2	月田近戸神社の獅子舞	平14. 3.26	柏川町月田1261 近戸神社

■県指定天然記念物

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	三夜沢赤城神社のたわらスギ	昭48. 4.25	三夜沢町114 赤城神社
2	月田のモチノキ	昭27.11.11	柏川町月田(個人所有)
3	時沢の夫婦マツ	昭27.11.11	富士見町時沢3164

■県指定名勝

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	滝沢の不動滝	平21. 3.24	柏川町中之沢滝沢

■市指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	文政四年天川原村分間絵図	昭39.12.22	文京町三丁目27-26 群馬県立文書館
2	文政四年前橋町絵図	昭39.12.22	文京町三丁目27-26 群馬県立文書館
3	大徳寺蛇門	昭39.12.22	小相木町91 大徳寺
4	麻覚動寺宝塔	昭39.12.22	公田町544-1 乗明院
5	力コウト山古墳石棺	昭39.12.22	三河町二丁目1-3 前橋市立中川小学校
6	典籍前橋藩松平家記録	昭39.12.22	大手町二丁目12-9 前橋市立図書館
7	書跡豊臣秀吉和歌短冊	昭39.12.22	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
8	笠薬師塔婆	昭45. 2.10	問屋町二丁目3-4 稲荷神社
9	松平藩主画像	昭48. 9.24	朝日町四丁目33-13 孝顕寺
10	結城政勝画像	昭48. 9.24	朝日町四丁目33-13 孝顕寺
11	酒井重忠画像	昭48. 9.24	大手町三丁目17-22 源英寺
12	東福寺鰐口	昭48. 9.24	三河町一丁目9-18 東福寺
13	小島田の供養碑	昭48. 9.24	小島田町530
14	大徳寺多宝塔	昭48. 9.24	小相木町91 大徳寺
15	阿弥陀三尊画像板碑	昭48. 9.24	公田町544-1 乗明院
16	東覚寺層塔	昭48. 9.24	総社町総社1607 光巖寺
17	日輪寺寛永の絵馬	昭49. 8.26	日輪寺町412 日輪寺
18	産泰神社八稜鏡	昭49. 8.26	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
19	慈照院千手観音坐像	昭50.12.24	二之宮町1811 慈照院
20	伯牙彈琴鏡	昭50.12.24	本町二丁目7-2 八幡宮
21	光巖寺薬医門	昭50.12.24	総社町総社1607 光巖寺
22	無量寿寺地蔵菩薩立像	昭50.12.24	二之宮町甲764 無量寿寺
23	無量寿寺十一面観音立像	昭50.12.24	二之宮町甲764 無量寿寺
24	二宮赤城神社梵鐘	昭50.12.24	二之宮町886 二宮赤城神社
25	二宮赤城神社絵馬	昭50.12.24	二之宮町886 二宮赤城神社
26	前橋藩刑場跡供養塔ならびに道しるべ	昭50.12.24	天川大島町290-5
27	宝禪寺寶型板碑	昭50.12.24	上泉町1277-1 宝禪寺
28	山王の宝塔	昭50.12.24	山王町(個人所有)

■市指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
29	八幡宮文書 一巻九通	昭50.12.24	本町二丁目7-2 八幡宮
30	前橋祇園祭礼絵巻 二巻	昭50.12.24	大手町二丁目12-9 前橋市立図書館
31	酒井家史料 129点	昭58.4.25	大手町二丁目12-9 前橋市立図書館
32	二宮赤城神社の宝塔	昭58.4.25	二之宮町886 二宮赤城神社
33	埴輪踊る男子像	昭58.4.25	勝沢町719 前橋市立芳賀小学校
34	普蔵寺供養塔	昭59.3.12	東大室町甲6 最善寺
35	一谷山記録 八冊	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
36	妙安寺筆録(最頂院成賢筆) 一冊	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
37	妙安寺古系図 一巻	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
38	一谷山最頂院妙安寺縁起上・下二巻	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
39	唯信鉄(伝親鸞筆) 一冊	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
40	唯信鉄文集(伝成然筆) 一冊	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
41	葵紋幕付本多佐渡守正信奉書写 二張二通	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
42	親鸞寿像遷座関係書状 28通	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
43	絹本着色蓮如上人像 一幅	昭60.3.27	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
44	円満寺薬師如来坐像 一体	昭60.3.27	後閑町578 円満寺
45	円満寺石造阿弥陀三尊坐像 三体	昭60.3.27	後閑町383-1 円満寺薬師堂
46	旧開根家住宅 一種	昭60.3.27	西大室町2510 大室公園
47	絹本着色九字名号	昭61.6.6	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
48	絹本着色十字名号	昭61.6.6	高崎市綿貫町992-1 群馬県立歴史博物館
49	富田の宝塔	昭61.6.6	富田町(個人所有)
50	臨江閣別館 付棟札及び渡廊下	昭61.6.6	大手町三丁目15
51	奈良三彩小童 付桧峯遺跡 62号住居址出土遺物	昭61.10.30	岩神町三丁目1-1 前橋市総合教育プラザ
52	前橋藩主松平家奉納能装束一式	昭62.6.24	大手町三丁目13-19 東照宮
53	前橋藩主松平家陣羽織	昭62.6.24	大手町三丁目13-19 東照宮
54	前橋藩主松平家軍配	昭62.6.24	大手町三丁目13-19 東照宮
55	石造地蔵菩薩坐像	昭63.8.3	總社町植野150 元景寺
56	大福寺の宝塔	平2.4.10	鳥羽町717 大福寺
57	小島田の阿弥陀如来坐像	平2.4.10	小島田町(個人所有)
58	鳥羽の大日如来及び笠塔婆	平3.4.12	鳥羽町813 鳥羽町東部公民館
59	徳藏寺の懸仏 三面	平3.4.12	元総社町一丁目31-38 徳藏寺
60	神明宮の甲冑	平4.4.14	岩神町三丁目1-1 前橋市総合教育プラザ
61	前橋藩老小河原左宮の甲冑附旗差物	平4.4.14	(個人所有)
62	麻本著色両界曼荼羅 一对	平4.4.14	元総社町一丁目31-38 徳藏寺
63	總社神社拝殿	平5.4.16	元総社町一丁目31-45 総社神社
64	享保十五年天川町絵図	平5.4.16	文京町三丁目27-26 群馬県立文書館
65	観昌寺の宝塔	平5.4.16	西大室町1673 観昌寺
66	江木の宝塔	平6.4.19	江木町224-1
67	光巌寺の打敷・油單並びに幡	平7.4.20	總社町總社1607 光巌寺
68	光巌寺の石幢	平7.4.20	總社町總社1607 光巌寺
69	龜里町阿内宿の石幢	平7.4.20	龜里町1203-2 阿内宿公民館

■市指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
70	石山寺蒔繪机	平9.4.21	総社町総社1607 光巌寺
71	三具足	一具 平9.4.21	総社町総社1607 光巌寺
72	輪口瓜形金 伝芦屋 一口 附懸め書 三通	平9.4.21	総社町総社1607 光巌寺
73	石造観音菩薩坐像	平10.4.10	田口町544-1 宝林寺
74	旧諏訪神社の宝物	昭52.3.1	堀越町1392
75	堀越掛舞台下座一对	昭52.3.1	堀越町1392
76	大胡神社の算額	平6.4.5	河原浜町638 大胡神社
77	鼻毛石一本木の板碑群	昭53.4.1	鼻毛石町766
78	柏倉丸山上野南溪の碑	昭53.4.1	柏倉町(個人所有)
79	赤城寺の石幢	昭53.4.1	鼻毛石町330 赤城寺
80	宿の平の宝塔(忠治の赤城塔)	昭53.4.1	苗ヶ島町(個人所有)
81	苗ヶ島小林の石造物群(小林の赤城塔)	昭53.4.1	苗ヶ島町599
82	大前田世良田薬師の石造阿弥陀如来坐像	昭53.4.1	大前田町542-1
83	金剛寺の石幢	昭53.4.1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
84	湯の沢業師地蔵	昭53.4.1	苗ヶ島町(個人所有)
85	三夜沢真鍋田家地鎮尊	昭53.4.1	三夜沢町107-1
86	赤城神社境内神代文字の碑	昭53.4.1	三夜沢町1114 赤城神社
87	鼻毛石の宝塔(赤城塔)	昭53.4.1	鼻毛石町963
88	鼻毛石謙田の石造阿弥陀如来坐像	昭53.4.1	鼻毛石町656-1
89	柏倉の板碑群	昭53.4.1	柏倉町582
90	東昌寺石造薬師如来坐像	昭53.4.1	柏倉町1428-1 東昌寺
91	柏倉六本木家墓地の石造物群	昭53.4.1	柏倉町1940
92	三夜沢の五輪塔群	昭53.4.1	三夜沢町(個人所有)
93	三夜沢の石殿	昭53.4.1	三夜沢町191
94	三夜沢赤城神社の宝塔(赤城塔)	昭53.4.1	三夜沢町1114 赤城神社
95	石殿(おびんづる様)	昭53.4.1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
96	赤城塔(並木道祖神)	昭53.4.1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
97	石殿(開山円義上人の墓)	昭54.4.1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
98	石灯籠	昭54.4.1	苗ヶ島町1100-1
99	苗ヶ島西原の石殿	昭54.4.1	苗ヶ島町1088-1 苗島神社
100	あ・うん石仏	昭54.4.1	馬場町29-1 稲荷神社
101	馬場の石造物群	昭54.4.1	馬場町(個人所有)
102	馬場古屋敷の石造物群	昭54.4.1	馬場町402-8
103	馬場古屋敷の石造物群	昭54.4.1	馬場町409-5
104	三夜沢眞鍋田家の板碑	昭54.4.1	三夜沢町(個人所有)
105	金剛寺木造十一面観音坐像	昭54.4.1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
106	長刀	昭54.4.1	三夜沢町116
107	赤城山荒山野論裁許絵図	昭54.4.1	苗ヶ島町、三夜沢町
108	市之関住吉神社算額(宮城流算額)	昭54.4.1	市之関町665 住吉神社
109	馬頭観世音懸仏	昭54.4.1	柏倉町1023-1 諏訪神社
110	柏倉の銅造阿弥陀如来坐像	昭54.4.1	柏倉町(個人所有)

■市指定重要文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
112	三夜沢杉下家の板碑	昭54. 4. 1	三夜沢町(個人所有)
113	金剛寺の懸仏	昭54. 4. 1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
114	金剛寺本堂の欄間彫刻	昭59. 6. 21	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
115	鼻毛石竹内の石造地蔵菩薩立像	昭60. 2. 12	鼻毛石町837-1
116	赤城寺の種子十三仏塔	昭60. 2. 12	鼻毛石町330 赤城寺
117	金剛寺の宝篋印塔	昭60. 2. 12	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
118	金剛寺の石造五層塔	昭60. 2. 12	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
119	苗ヶ島の芭蕉句碑	昭60. 2. 12	苗ヶ島町1117-1
120	狂歌合わせの額	昭63. 2. 13	市之関町665 住吉神社
121	折句合わせの額	昭63. 2. 13	市之関町665 住吉神社
122	滝沢不動明王像	昭43. 9. 1	柏川町中之沢滝沢
123	三ヶ尻の宝塔(赤城塔)	昭43. 9. 1	柏川町深津994
124	近戸神社神輿	昭49. 5. 1	柏川町月田1260 近戸神社
125	稻里の石造馬頭観世音立像	昭49. 5. 1	柏川町稻里481-1
126	石造薬師三尊立像	平17. 4. 19	亀泉町317
127	珊瑚寺の板碑と多宝塔	昭36. 5. 6	富士見町石井1227 珊瑚寺
128	萩林庵の阿弥陀像	昭45. 5. 25	富士見町原之郷甲1791
129	横室の宝篋印塔	昭46. 2. 11	富士見町横室(個人所有)
130	時沢の仁王と多宝塔	昭47. 7. 3	富士見町時沢685
131	不入の藏骨器	昭48. 3. 21	富士見町石井1116
132	旧小暮一の鳥居	平7. 10. 1	富士見町小暮814
133	原西の阿弥陀座像	平12. 4. 28	富士見町原之郷551-2
134	伝 大胡太郎の墓石	昭50. 7. 1	堀越町1240 長善寺
135	龍性寺の石幢	昭52. 3. 1	茂木町1203 龍性寺
136	堀越共同墓地の石幢	昭52. 3. 1	堀越町2122
137	鹿沼家墓地の石幢	昭52. 3. 1	上大屋町133
138	斎藤多須久翁の碑	昭53. 4. 1	苗ヶ島町1061-1
139	北爪将監の供養塔	昭53. 4. 1	鼻毛石町330 赤城寺

■市指定史跡

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	前橋藩主酒井氏歴代墓地	昭39.12.22	紅雲町二丁目8-15 龍海院
2	前橋城車橋門跡	昭39.12.22	大手町二丁目5-3
3	新田塚古墳	昭45. 2. 10	上泉町2465
4	経塚古墳	昭48. 9. 24	東善町経塚乙737
5	オブ塚古墳	昭48. 9. 24	勝沢町420
6	下村善太郎の墓	昭49. 8. 26	紅雲町二丁目8-15 龍海院
7	亀塚山古墳	昭54. 3. 26	山王町一丁目28-3
8	本城氏の墓	三基 昭54. 3. 26	紅雲町一丁目9-14 長昌寺
9	秋元氏墓地	昭56. 4. 27	総社町植野150 元景寺
10	秋元氏歴代墓地	昭56. 4. 27	総社町総社1606 宝塔山古墳
11	今井神社古墳	昭56. 4. 27	今井町818 今井神社
12	塩原塚古墳	昭58. 4. 25	田口町582-7

■市指定史跡

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
13	王山古墳	昭59. 3.12	大渡町一丁目6-1
14	二宮赤城神社社地	昭59. 3.12	二之宮町886 二宮赤城神社
15	金冠塚古墳	昭61. 6. 6	山王町一丁目13-3
16	高須家墓地	平8. 4. 5	三河町一丁目19-37 正幸寺
17	不二山古墳	平9. 4.21	文京町三丁目2
18	牧野家墓地	昭50. 7. 7	堀越町1259 養林寺
19	稻荷塚古墳	昭50. 7. 7	上大屋町8
20	東宮鐵男大佐の墓	昭53. 4. 1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
21	馬場の大燈籠	昭53. 4. 1	馬場町56-2
22	白山古墳	昭53. 4. 1	苗ヶ島町1659
23	新山古墳	昭53. 4. 1	馬場町104-3
24	市之間繩文前期遺跡	昭53. 4. 1	市之間町353-2
25	柏倉殿替戸岩跡	昭53. 4. 1	柏倉町(個人所有)
26	片並木製鉄跡	昭53. 4. 1	苗ヶ島町1796-5
27	橋形遺跡	昭53. 4. 1	苗ヶ島町2732
28	大前田英五郎の墓	昭53. 4. 1	大前田町1785-3
29	大前田内出居岩跡	昭54. 4. 1	大前田町(個人所有)
30	小池文七郎の墓	昭54. 4. 1	市之間町728
31	宿の平城跡	昭55. 4. 1	苗ヶ島町2062-1
32	大平繩文住居跡遺構	昭43. 9. 1	柏川町室沢869
33	大林繩文住居跡遺構	昭43. 9. 1	柏川町室沢1-45
34	室沢岩跡	昭49. 5. 1	柏川町室沢(個人所有)
35	深津坂田城跡(深津館)	昭49. 5. 1	柏川町深津(個人所有)
36	女渕城跡	昭49. 5. 1	柏川町女渕1221-1
37	中村城跡	昭49. 5. 1	柏川町中(個人所有)
38	宇道遺跡	昭57. 9. 1	柏川町中之沢456
39	五代大日塚古墳	平17. 4.19	五代町214
40	九十九山古墳	昭49.12. 1	富士見町原之郷275-1
41	皆沢焼窯跡	昭51. 6.14	富士見町皆沢江戸窯
42	旧赤城神社参道松並木	昭62. 9.30	富士見町時沢1866
43	荒子杉山古墳	平22. 3.19	荒子町1188-19
44	遠見山古墳	平22. 3.19	総社町総社1410
45	古屋敷古墳	昭54. 4. 1	馬場町458

■市指定重要有形民俗文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	上泉の獅子舞	昭45. 2.10	上泉町271 講訪神社
2	二之宮の式三番叟 付伝授書	昭45. 2.10	二之宮町886 二宮赤城神社
3	駒形牛頭天王の獅子頭 一対	昭57. 4.26	駒形町710 駒形神社
4	稻荷新田の薬師	平3. 4.12	稻荷新田町458 稲荷新田町公民館
5	泉沢の人形 附小道具等一括	平6. 4.19	柏川町舊89 前橋市柏川出土文化財管理センター
6	込替戸三番叟人形一括	昭43. 9. 1	柏川町舊89 前橋市柏川出土文化財管理センター
7	堀下の仏像群	昭52. 3. 1	堀越町969-1

■市指定重要有形民俗文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
8	金剛寺の双体道祖神	昭53. 4. 1	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
9	鼻毛石の線刻不動尊像(爪ひき不動尊)	昭53. 4. 1	鼻毛石町329-1
10	鼻毛石天神の五輪塔	昭53. 4. 1	鼻毛石町201-31
11	苗ヶ島石合薬師の石殿(石合薬師)	昭54. 4. 1	苗ヶ島町503
12	山街道の薬師如来坐像(山街道薬師)	昭54. 4. 1	苗ヶ島町631-1
13	苗ヶ島石合の石造物群	昭54. 4. 1	苗ヶ島町501
14	柏倉の双体道祖神	昭54. 4. 1	柏倉町1321-3
15	馬場の石造馬頭観世音立像	昭54. 4. 1	馬場町29-1 稲荷神社
16	柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台	昭54. 4. 1	柏倉町1023-1 諏訪神社
17	鼻毛石竹内の双体道祖神	昭60. 2. 12	鼻毛石町837-1
18	大前田西原の石造物群 (凝灰岩薬師石仏)	昭63. 2. 13	大前田町1380-1
19	大前田久保の石造地蔵菩薩立像	平4. 3. 19	大前田町1738-1
20	大胡宿の道しるべ	昭50. 7. 1	大胡町80
21	河原浜の道しるべ	昭50. 7. 1	河原浜町730
22	市之間の供養塚群	昭53. 4. 1	市之間町467-1
23	馬場の馬頭観音の碑	昭53. 4. 1	馬場町67-1
24	苗ヶ島下田中の稻荷宮(稻荷様)	昭53. 4. 1	苗ヶ島町541-2
25	赤城神社御神幸の奥懸	昭55. 4. 1	柏倉町902

■市指定重要無形民俗文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	前橋鳶木造り纏振り梯子乗り	平4. 4. 14	城東町二丁目
2	二宮赤城神社の御神幸	平5. 4. 16	二之宮町886 二宮赤城神社
3	總社神社の簡粥置炭式	平5. 4. 16	元總社町一丁目31-45 總社神社
4	御靈神社太々神楽	昭43. 9. 1	柏川町女渊1174-1 御靈神社
5	込皆戸操り人形式三番叟	平12. 3. 30	柏川町込皆戸129-1 白山神社
6	立て舞(舞)諏訪神社の獅子舞	平18. 4. 18	總社町植野464 諏訪神社
7	江田鏡神社の獅子舞	平20. 3. 19	江田町689 鏡神社
8	二宮赤城神社太々神楽	平21. 3. 24	二之宮町886 二宮赤城神社
9	總社神社太々神楽	昭48. 9. 24	元總社町一丁目31-45 總社神社
10	野良犬獅子舞	昭48. 9. 24	清野町346 八幡宮
11	産泰神社太々神楽	昭48. 9. 24	下大屋町569 産泰神社
12	片貝神社太々神楽	昭48. 9. 24	東片貝町464-1 片貝神社
13	泉沢の獅子舞	昭49. 8. 26	泉沢町44 泉沢神社
14	春日神社太々神楽	昭49. 8. 26	上佐鳥町368 春日神社
15	稻荷藤節	昭49. 8. 26	泉沢町588 泉沢町公民館
16	植野稻荷神社太々神楽 附面4点・衣装3点	平11. 4. 20	總社町桜が丘1039 稲荷神社
17	大胡神社太々神楽	昭44. 7. 7	河原浜町638 大胡神社
18	三夜沢赤城神社太々神楽	昭60. 7. 4	三夜沢町114 赤城神社
19	大前田諏訪神社の獅子舞	昭60. 7. 4	大前田町816 諏訪神社

■市指定天然記念物

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	前橋高等学校のラクウショウ	平5.4.16	下沖町321-1 群馬県立前橋高等学校
2	総社神社の社叢けやき	6本 平9.4.21	元総社町一丁目31-45 総社神社
3	西大室町公民館のオハツキイチョウ	平10.4.10	西大室町1684 西大室町公民館
4	元総社町石井家のクスノキ	平11.4.20	元総社町(個人所有)
5	井出上神社のシイ	平12.4.14	飯土井町甲1 井出上神社
6	春日神社のケヤキ	平12.4.14	上佐鳥町374 春日神社
7	河原浜終葉師の柊樹林	昭44.6.27	河原浜町143
8	三夜沢のブナ	昭55.4.1	三夜沢町354-1
9	大穴のブナ	平4.8.18	柏倉町
10	金剛寺のナツメ	平13.3.21	苗ヶ島町1147-2 金剛寺
11	大胡神社のムクロジ	平20.3.19	河原浜町638 大胡神社
12	沼の蓬のザゼンソウ	平7.10.1	富士見町赤城山 沼の蓬市有林内
13	大室公園のコナラ	平23.3.29	西大室町2545 大室公園

■国登録有形文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	群馬県庁本庁舎	平8.12.20	大手町一丁目1-1
2	群馬会館	平8.12.20	大手町二丁目1-1
3	前橋市水道資料館 (旧浄水構場事務所)	平8.12.20	敷島町216
4	前橋市浄水場配水塔	平8.12.20	敷島町216
5	萩原家住宅主屋敷	平11.10.14	朝日町一丁目(個人所有)
6	萩原家住宅旧蔵蔵	平11.10.14	朝日町一丁目(個人所有)
7	広瀬川美術館(旧近藤嘉男アトリエ及び絵画教室ラ・ボンヌ)	平11.10.14	千代田町三丁目3-10
8	前橋カトリック教会聖堂	平13.11.20	大手町二丁目14-6
9	旧安田銀行担保倉庫 (協同組合前橋商品市場倉庫)	平16.7.23	住吉町二丁目10-2
10	上毛電気鉄道大胡駅舎	平19.7.31	茂木町41-2
11	上毛電気鉄道大胡駅電車庫	平19.7.31	茂木町138-1
12	上毛電気鉄道大胡駅変電所	平19.7.31	茂木町30-2
13	上毛電気鉄道大胡駅受電鉄塔	平19.7.31	茂木町48-3
14	上毛電気鉄道大胡駅避雷鉄塔	平19.7.31	茂木町30-2
15	上毛電気鉄道大胡駅中継鉄塔	平19.7.31	茂木町30-2
16	上毛電気鉄道大胡駅引留鉄塔	平19.7.31	茂木町30-2
17	上毛電気鉄道荒砥川橋梁	平19.7.31	茂木町～大胡町
18	前橋市中央児童遊園(るなばあく) もくば館	平19.12.5	大手町三丁目16-3
19	前橋市中央児童遊園(るなばあく) 旧ラジオ塔	平19.12.5	大手町三丁目16-3
20	旧勝山社煉瓦蔵	平20.3.7	本町二丁目3-8
21	上毛電気鉄道粕川橋梁	平21.4.28	粕川町女渕～粕川町西田面

■国登録有形民俗文化財

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	前橋の養蚕・製糸用具及び関連資料	平20.3.13	敷島町262 前橋市蚕糸記念館他

■旧国認定重要美術品

No	物 件 名	指定年月日	所 在 地
1	四神付飾土器	昭10.12.18	三俣町二丁目10-2 前橋市文化財保護課
2	石製鷦尾	一箇 昭11.11.28	総社町総社(個人所有)
3	石製鷦尾残片	一箇 昭11.11.28	総社町総社2408 日枝神社
4	後醍醐天皇宸翰古歌御色紙	一幅 昭18.10.1	千代田町三丁目3-30 妙安寺
5	後柏原天皇宸翰朗詠詩歌	一幅 昭18.10.1	千代田町三丁目3-30 妙安寺
6	靈元天皇宸翰御懐紙	一幅 昭18.10.1	千代田町三丁目3-30 妙安寺
7	勾玉	昭14.7.30	三夜沢町114 赤城神社
8	六地藏石殿	昭18.1.1	粕川町月田1261 近戸神社



写真提供 (50音順、敬称略)

下村 善之助

富澤 好克

群馬県立文書館

群馬県立歴史博物館

財團法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市商工観光部観光課



新版 前橋の文化財

平成23年11月発行

■発 行 前橋市教育委員会

■企画・編集 前橋市教育委員会管理部文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL (027)231-9531

■制作・印刷 朝日印刷工業株式会社

本書の全部または一部を無断で複製(コピー)することは著作権法上の例外を除き、禁じられています。